

# 平成 26 年度 学生生活調査

## まえがき

日本学生支援機構では、学生の標準的な学生生活状況を把握し、学生生活支援事業の改善を図るための基礎資料を得ることを目的として、平成 16 年度から隔年で「学生生活調査」を実施しています。本調査は、平成 14 年度までは文部科学省において実施していましたが、平成 16 年 4 月の日本学生支援機構（JASSO）の設立に伴い、文部科学省から業務が移管されました。

このたび、平成 26 年度の調査結果を取りまとめましたので、主に大学昼間部、短期大学昼間部及び大学院を中心に前回調査（平成 24 年度）との比較を行いながら、その調査の概要を説明します。

今回の調査は、前回調査と同様に大学学部、短期大学本科及び大学院の学生（通信課程、休学者及び外国人留学生を除く）を調査対象とし、各種の条件下における学生の標準的な学生生活費とこれを支える家庭の経済状況、学生のアパート従事状況など学生生活状況を把握することを主眼として、全国 2,934,376 人（前回比：27,371 人減）から 99,842 人（前回比：8,493 人増）を抽出し、平成 26 年 11 月現在で実施したものです。

調査の方法は、大学・短期大学の別、昼間部・夜間部の別、大学院修士課程・博士課程・専門職学位課程の別、設置者（国公私立）の別に従ってそれぞれ抽出率を定め、サンプル数を算出し、在籍学生数に比例して各大学、短期大学にサンプル数を割り当てて調査を依頼しました。回収率は 46.2%、有効回答数は 45,577 人（前回比：4,653 人増）で、本文に紹介する資料に掲げる数値は、この標本調査の結果を基礎として、全国の調査対象学生総数についての数値を推定した結果となっています。

学生生活に伴う問題は広範かつ複雑であって、この調査で取り上げたことに尽きるものではありませんが、この調査結果が学生生活に関心を寄せられる方々の参考になれば幸いです。

終わりに、平成 26 年度調査の実施に際し、多大なご協力をいただいた全国各大学及び各短期大学の皆様に深く感謝申し上げます。

独立行政法人 日本学生支援機構  
学生生活部 学生支援企画課

## ＜ 学生生活費等について ＞

大学教育を受けるのに年間どれだけの経費がかかっているかを知るため、学生生活を送るために不可欠な要素としての学費と生活費を取り上げ、これを学生生活費としてその実態をみることとする。

ここに取り上げた「学費」とは、授業料、その他の学校納付金（入学料や入学時にのみ支払う施設設備費などの一時的納付金を除く）、図書、学用品等に要する修学費、課外活動費及び通学費をいう。「生活費」とは、食費、住居・光熱費、保健衛生費、娯楽・嗜好費及びその他の日常費をいう。（用語の定義、年間収入の取り方等については、後掲の《資料2》調査票の様式及び調査項目の説明を参照）

また、この調査における大学院の「修士課程」、「博士課程」、「専門職学位課程」は次の区分によるものである。「修士課程」は、(1)修士課程、(2)博士前期課程、(3)一貫制博士課程の前期2年（医・歯・薬・獣医を除く）とする。「博士課程」は、(1)博士後期課程、(2)一貫制博士課程の後期3年、(3)一貫制博士課程（医・歯・薬・獣医）とする。「専門職学位課程」は、法科、教職、会計、技術経営大学院などの専門職学位の取れる大学院課程とする。

学生生活費は、大学・短期大学別、昼間部・夜間部別、大学院修士課程・博士課程・専門職学位課程別、設置者別あるいは居住形態別等学生の置かれている条件の違いによって大きく影響されるため、以下、いくつかの基本的な条件について集計分析を行っているが、解説は主に、大学昼間部、短期大学昼間部、及び大学院について行うことにした。

### 本調査結果における留意事項

1. 四捨五入した数を使用している図表では、内訳の数の合計が、合計欄の数と一致しない場合がある。  
また、集計結果を元に再計算した割合についても合計して100%にならないことがある。
2. 平成14年度までは文部科学省が調査を実施した。
3. 大学院専門職学位課程については、平成18年度より調査対象とした。
4. 大学院（全課程）については、配偶者を有すると回答した者は、学生生活費が大きく異なるケースが想定されるため、従前の例にならない学生生活費等の集計に含まない。
5. 表中の記号は次のように使う。  
「－」 計数が無い場合  
「0.0」 計数が単位未満の場合  
「…」 計数の出現が有り得ない場合または調査対象とならなかった場合
6. 質問の一部に無回答がある調査票は、当該の質問を集計する際には無効票としたものがある。
7. 集計において調査数が少数となったケースも公表しており、結果の利用には注意を要する。
8. その他、集計表毎に留意事項がある場合は、該当する集計表の欄外に記載した。

## 1. 学生生活費

### (1) 年間学生生活費 (A表)

年間の学生生活費は、次のようになっている。

#### ① 大学昼間部等

大学昼間部は約 186 万円、短期大学昼間部は約 158 万円となっている。これを平成 24 年度調査と比較すると、大学昼間部で 1.0%減、短期大学昼間部で 4.3%減となっている。

なお、夜間部の学生生活費は、昼間部に比べ大学で約 44 万円、短期大学で約 38 万円低く、平成 24 年度調査と比較すると、大学で 3.5%増、短期大学で 3.9%増となっている。

#### ② 大学院

修士課程は約 175 万円、博士課程は約 216 万円、専門職学位課程は約 229 万円、これを平成 24 年度調査と比較すると、修士課程で 0.8%増、博士課程で 2.0%増、専門職学位課程で 4.3%増となっている。

**A表 年間学生生活費**

(単位:円)

区 分	大学		短期大学		大学院			
	昼間部	夜間部	昼間部	夜間部	修士課程	博士課程	専門職学位課程	
学 費	授業料	916,000	448,500	781,700	476,900	616,500	472,700	907,000
	その他の学校納付金	128,600	50,300	183,000	53,200	32,400	15,900	65,500
	修学費	49,500	42,900	53,400	33,200	54,400	129,900	110,800
	課外活動費	34,800	28,300	9,100	7,700	20,500	22,100	11,700
	通学費	66,400	72,300	76,800	51,500	56,600	66,300	72,400
	計	1,195,300	642,300	1,104,000	622,500	780,400	706,900	1,167,400
生 活 費	食費	169,300	187,000	96,000	114,600	265,400	374,700	299,200
	住居・光熱費	187,400	182,300	95,600	101,700	328,500	431,700	299,700
	保健衛生費	36,500	38,700	36,000	32,500	40,500	64,700	54,600
	娯楽嗜好費	133,500	158,300	112,300	129,600	144,400	203,600	151,600
	その他の日常費	140,100	217,300	136,600	201,800	191,000	380,400	316,600
	計	666,800	783,600	476,500	580,200	969,800	1,455,100	1,121,700
合 計	(△1.0)	(3.5)	(△4.3)	(3.9)	(0.8)	(2.0)	(4.3)	
		1,862,100	1,425,900	1,580,500	1,202,700	1,750,200	2,162,000	2,289,100
参 考	平成24年度	1,880,100	1,377,500	1,651,800	1,157,800	1,735,700	2,120,300	2,194,300
	平成22年度	1,830,500	1,435,700	1,591,600	1,109,900	1,732,100	2,112,200	2,243,700
	平成20年度	1,859,300	1,412,200	1,580,000	1,076,200	1,742,100	2,053,100	2,222,500
	平成18年度	1,895,100	1,483,000	1,640,200	1,208,300	1,749,800	2,081,400	2,306,000

(注) ( )は、平成24年度調査からの増減率である。

### (2) 学生生活費の推移 (B表、第1図)

#### ① 大学昼間部

学生生活費について学費と生活費に分けて前回調査と比較すると、学費は 1.7%増、生活費は 5.4%減となっている。

#### ② 短期大学昼間部

学生生活費について学費と生活費に分けて前回調査と比較すると、学費は 1.1%増、生活費は 14.9%減となっている。

#### ③ 大学院

学生生活費について学費と生活費に分けて前回調査と比較すると、学費は減少しており、修士課程、博士課程、専門職学位課程でそれぞれ、1.0%減、1.9%減、0.1%減となっている。一方、生活費は増加しており、修士課程、博士課程、専門職学位課程でそれぞれ、2.3%増、4.0%増、9.4%増となっている。

B表 学生生活費の推移

(単位:円)

区分	年度	平成20年度	平成22年度	平成24年度	平成26年度	
大 学 部	昼 学 費	授業料及びその他の学校納付金	(1.8)	(△1.5)	(0.2)	(3.0)
		1,026,700	1,011,600	1,013,700	1,044,600	
		(△4.1)	(1.3)	(2.1)	(△6.9)	
	間 学 費	修学費、課外活動費、通学費	156,300	158,400	161,800	150,700
		計	(1.0)	(△1.1)	(0.5)	(1.7)
		1,183,000	1,170,000	1,175,500	1,195,300	
	生 活 費	食費、住居・光熱費	(△9.7)	(△1.3)	(△5.2)	(△0.8)
		384,500	379,500	359,700	356,700	
		(△2.0)	(△3.7)	(22.7)	(△10.1)	
	日 常 費 (保健衛生費、 楽しみ好費等)	291,800	281,000	344,900	310,100	
計		(△6.6)	(△2.3)	(6.7)	(△5.4)	
676,300		660,500	704,600	666,800		
合 計	(△1.9)	(△1.5)	(2.7)	(△1.0)		
1,859,300	1,830,500	1,880,100	1,862,100			
短 期 大 学 部	昼 学 費	授業料及びその他の学校納付金	(△0.6)	(0.8)	(△2.3)	(3.0)
		951,100	958,600	936,700	964,700	
		(△2.5)	(2.2)	(0.1)	(△10.2)	
	間 学 費	修学費、課外活動費、通学費	151,700	155,000	155,200	139,300
		計	(△0.9)	(1.0)	(△1.9)	(1.1)
		1,102,800	1,113,600	1,091,900	1,104,000	
	生 活 費	食費、住居・光熱費	(△9.3)	(△6.2)	(7.4)	(△14.9)
		223,300	209,500	225,100	191,600	
		(△9.7)	(5.8)	(24.7)	(△14.9)	
	日 常 費 (保健衛生費、 楽しみ好費等)	253,900	268,500	334,800	284,900	
計		(△9.5)	(0.2)	(17.1)	(△14.9)	
477,200		478,000	559,900	476,500		
合 計	(△3.7)	(0.7)	(3.8)	(△4.3)		
1,580,000	1,591,600	1,651,800	1,580,500			
大 学 修 程 課 程	学 費	授業料及びその他の学校納付金	(0.8)	(△1.2)	(△1.5)	(1.9)
		653,900	646,300	636,700	648,900	
		(△4.7)	(0.2)	(△2.9)	(△13.1)	
	間 学 費	修学費、課外活動費、通学費	155,700	156,000	151,400	131,500
		計	(△0.3)	(△0.9)	(△1.8)	(△1.0)
		809,600	802,300	788,100	780,400	
	生 活 費	食費、住居・光熱費	(△1.9)	(0.0)	(△7.5)	(6.4)
		602,900	603,200	558,100	593,900	
		(1.9)	(△0.9)	(19.3)	(△3.5)	
	日 常 費 (保健衛生費、 楽しみ好費等)	329,600	326,600	389,500	375,900	
計		(△0.6)	(△0.3)	(1.9)	(2.3)	
932,500		929,800	947,600	969,800		
合 計	(△0.4)	(△0.6)	(0.2)	(0.8)		
1,742,100	1,732,100	1,735,700	1,750,200			
大 学 博 士 課 程	学 費	授業料及びその他の学校納付金	(△3.6)	(△1.0)	(△5.4)	(2.1)
		511,000	505,800	478,600	488,600	
		(△0.2)	(2.2)	(△13.4)	(△9.8)	
	間 学 費	修学費、課外活動費、通学費	273,500	279,400	242,000	218,300
		計	(△2.4)	(0.1)	(△8.2)	(△1.9)
		784,500	785,200	720,600	706,900	
	生 活 費	食費、住居・光熱費	(△0.9)	(2.0)	(△7.2)	(5.1)
		810,900	826,800	767,200	806,400	
		(△0.2)	(9.3)	(26.4)	(2.6)	
	日 常 費 (保健衛生費、 楽しみ好費等)	457,700	500,200	632,500	648,700	
計		(△0.7)	(4.6)	(5.5)	(4.0)	
1,268,600		1,327,000	1,399,700	1,455,100		
合 計	(△1.4)	(2.9)	(0.4)	(2.0)		
2,053,100	2,112,200	2,120,300	2,162,000			
院 専 門 職 学 位 課 程	学 費	授業料及びその他の学校納付金	(△3.3)	(△3.3)	(△5.3)	(1.0)
		1,050,100	1,015,900	962,400	972,500	
		(△3.8)	(0.0)	(△9.4)	(△5.5)	
	間 学 費	修学費、課外活動費、通学費	227,700	227,700	206,200	194,900
		計	(△3.4)	(△2.7)	(△6.0)	(△0.1)
		1,277,800	1,243,600	1,168,600	1,167,400	
	生 活 費	食費、住居・光熱費	(△4.7)	(3.5)	(△5.9)	(3.8)
		591,800	612,700	576,800	598,900	
		(△2.6)	(9.8)	(15.9)	(16.5)	
	日 常 費 (保健衛生費、 楽しみ好費等)	352,900	387,400	448,900	522,800	
計		(△4.0)	(5.9)	(2.6)	(9.4)	
944,700		1,000,100	1,025,700	1,121,700		
合 計	(△3.6)	(1.0)	(△2.2)	(4.3)		
2,222,500	2,243,700	2,194,300	2,289,100			
家計消費支出指数(年度)	(△0.4)	(△2.3)	(0.0)	(0.2)		
99.6	97.3	97.3	97.5			
消費者物価指数(年度)	(1.5)	(△2.2)	(△0.4)	(3.9)		
101.5	99.3	98.9	102.8			

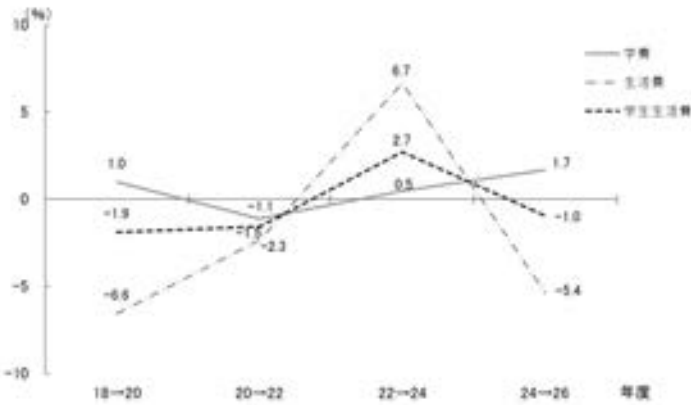
(注) 1. ( ) は、それぞれ前回調査からの増減率である。

2. 家計消費支出指数及び消費者物価指数について、平成18年度の指数を100とする。

3. 家計消費支出指数及び消費者物価指数は、総務省家計調査の結果等より算出。

第1図

大学生生活費の増減率の推移  
(大学昼間部)



(3) 設置者別の学生生活費 (C表、第2図)

①大学昼間部

学費と生活費を合わせた学生生活費は、私立が国立に比べ約 48 万円高くなっている。これは、学費の差によるところが大きい。生活費については、国立が私立よりも高く、その差の主な要因は食費と住居・光熱費となっている。

②短期大学昼間部

学費と生活費を合わせた学生生活費は、私立が公立に比べ約 53 万円高くなっている。これは大学昼間部と同様に学費の差によるところが大きい。

③大学院

学費と生活費を合わせた学生生活費は、私立が国立に比べ修士課程は約 33 万円、博士課程は約 22 万円、専門職学位課程で約 72 万円高くなっている。これは、学費の差によるところが大きい。

C表 設置者別の学生生活費

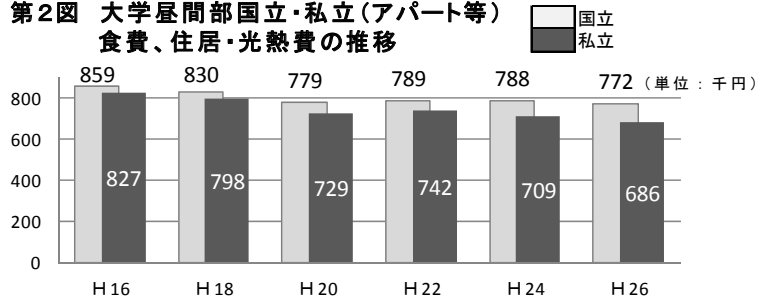
(単位：円)

区分	学 費			生 活 費			合 計		
	授業料、 その他の 学校納付金	修学費、 課外活動費、 通学費	小 計	食費、 住居・光熱費	保健衛生費、 娯楽・嗜好費、 その他の日常費	小 計			
大学 昼間部	国立	509,400	138,300	647,700	544,900	306,800	851,700	1,499,400	
	公立	536,100	130,200	666,300	442,400	314,200	756,600	1,422,900	
	私立	1,206,500	155,100	1,361,600	306,000	310,600	616,600	1,978,200	
	平均	1,044,600	150,700	1,195,300	356,700	310,100	666,800	1,862,100	
短期大学 昼間部	国立	---	---	---	---	---	---	---	
	公立	430,000	87,700	517,700	307,000	249,900	556,900	1,074,600	
	私立	994,100	142,200	1,136,300	185,300	286,900	472,200	1,608,500	
	平均	964,700	139,300	1,104,000	191,600	284,900	476,500	1,580,500	
大学院	修士課程	国立	499,400	111,900	611,300	670,800	362,800	1,033,600	1,644,900
		公立	518,900	142,200	661,100	553,100	394,500	947,600	1,608,700
		私立	949,100	166,000	1,115,100	459,600	396,900	856,500	1,971,600
		平均	648,900	131,500	780,400	593,900	375,900	969,800	1,750,200
	博士課程	国立	430,500	206,200	636,700	847,000	618,900	1,465,900	2,102,600
		公立	479,700	256,300	736,000	706,200	784,800	1,491,000	2,227,000
		私立	663,600	245,900	909,500	708,400	706,900	1,415,300	2,324,800
		平均	488,600	218,300	706,900	806,400	648,700	1,455,100	2,162,000
学位課程 専門職	国立	590,800	171,300	762,100	641,100	445,200	1,086,300	1,848,400	
	公立	549,700	194,600	744,300	535,200	603,800	1,139,000	1,883,300	
	私立	1,217,200	208,400	1,425,600	579,500	561,000	1,140,500	2,566,100	
	平均	972,500	194,900	1,167,400	598,900	522,800	1,121,700	2,289,100	

(※1) 学生生活費の平均は居住形態別・設置者別に各項目の集計値を算出しているため、食費と住居・光熱費は他の居住形態別の結果も参照されたい。

(※2) 下宿・アパート・その他を「アパート等」という。

第2図 大学昼間部国立・私立(アパート等)食費、住居・光熱費の推移



#### (4) 居住形態別の学生数の割合 (D表)

居住形態別学生数の割合は、大学昼間部（以下「大学」）の平均で自宅居住の学生（以下「自宅」）が56.5%、学寮居住の学生（以下「学寮」）が5.5%、アパート等居住の学生（以下、「アパート等」）が38.0%である。大学の自宅は、私立では63.3%を占めているのに対し、国立、公立ではそれぞれ31.3%、39.4%と低くなっている。

短期大学昼間部（以下「短期大学」）の平均では、自宅74.4%、学寮6.0%、アパート等19.6%と自宅が最も高く、その割合は大学と比べて高くなっている。

また、大学院については、修士課程の平均で自宅43.6%、学寮3.5%、アパート等52.9%、博士課程の平均で自宅48.4%、学寮2.6%、アパート等49.0%、専門職学位課程の平均で自宅58.2%、学寮4.1%、アパート等37.7%となっている。

**D表 居住形態別学生数の割合** (単位:%)

区 分			自宅	学寮	アパート等	計
大 学	昼 間 部	国 立	31.3	5.7	63.0	100.0
		公 立	39.4	3.1	57.5	100.0
		私 立	63.3	5.7	31.1	100.0
		平 均	56.5	5.5	38.0	100.0
短 期 大 学	昼 間 部	公 立	44.8	6.5	48.7	100.0
		私 立	75.9	6.0	18.0	100.0
		平 均	74.4	6.0	19.6	100.0
大 学 院	修 士 課 程	国 立	32.1	4.2	63.6	100.0
		公 立	48.3	2.1	49.6	100.0
		私 立	61.7	2.5	35.8	100.0
		平 均	43.6	3.5	52.9	100.0
	博 士 課 程	国 立	43.7	3.0	53.3	100.0
		公 立	58.0	2.0	40.0	100.0
		私 立	59.0	1.5	39.5	100.0
		平 均	48.4	2.6	49.0	100.0
	学 位 課 程 専 門 職	国 立	47.2	8.1	44.7	100.0
		公 立	58.3	14.5	27.2	100.0
		私 立	64.8	1.0	34.2	100.0
		平 均	58.2	4.1	37.7	100.0

#### (5) 居住形態別の学生生活費 (E表、第3図)

##### ①大学昼間部

居住形態別の学生生活費は、国・公・私立いずれもアパート等居住の学生（以下「アパート等」）が最も高く、国立の自宅居住の学生（以下「自宅」）の1.50～2.17倍であり、その差額は、国立約62万円、公立約55万円、私立約62万円となっている。学寮居住の学生（以下「学寮」）は、国・公・私立いずれも自宅とアパート等の間で、国立自宅と比べると、1.20～1.86倍となっている。

自宅と学寮・アパート等の学生生活費の差は、主として食費及び住居・光熱費によるものであり、これを大学昼間部の平均を例にとって月額で示したのが第3図である。生活費で最も差が大きくなったのは、住居・光熱費で、アパート等の学生と学寮の学生を比較すると、アパート等で月額約1万3千円高いが、食費と住居・光熱費以外の生活費は、いずれの居住形態の値も同程度となっている。

②短期大学昼間部

居住形態別の学生生活費は、公・私立いずれもアパート等が高く、公立自宅と比べると、1.49～2.28倍となっている。設置者別にみると、自宅とアパート等の差は、公立で約42万円、私立で約46万円となっている。

③大学院

居住形態別の学生生活費は、すべての課程において、国・公・私立いずれもアパート等が最も高く、私立のアパート等で最大となっている。

国立自宅の学生と私立アパート等の差は、修士課程で1.98倍、博士課程で1.57倍、専門職学位課程で1.90倍となっている。

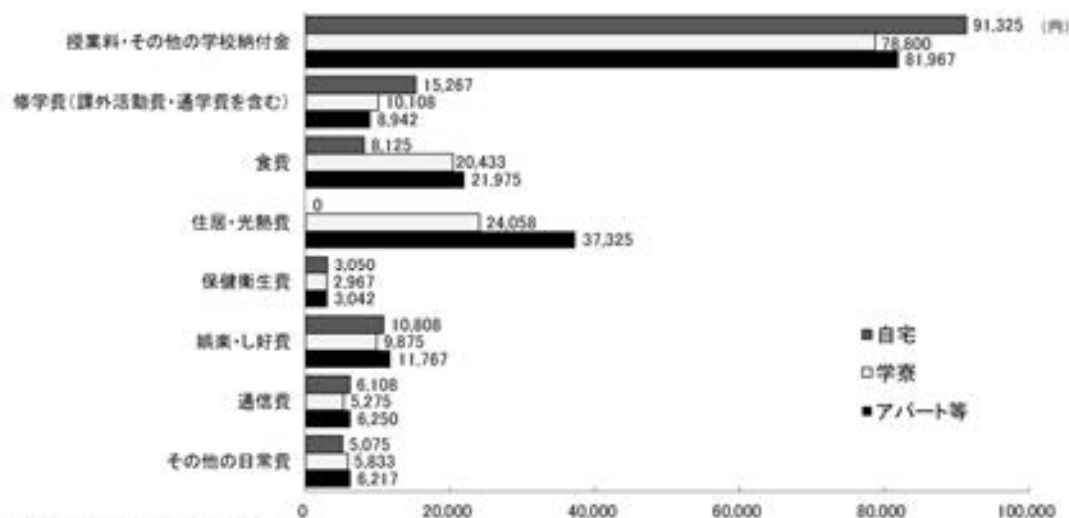
E表 居住形態別学生生活費

(単位：円)

区 分			自 宅	学 寮	アパ ー ト 等
大 学	昼 間 部	国立	1,099,300 (1.00)	1,323,100 (1.20)	1,714,600 (1.56)
		公立	1,098,800 (1.00)	1,338,000 (1.22)	1,649,400 (1.50)
		私立	1,769,600 (1.61)	2,043,700 (1.86)	2,390,500 (2.17)
		平均	1,677,100	1,888,200	2,129,900
短 期 大 学	昼 間 部	公立	865,200 (1.00)	928,000 (1.07)	1,286,800 (1.49)
		私立	1,509,500 (1.74)	1,762,300 (2.04)	1,973,800 (2.28)
		平均	1,489,400	1,715,300	1,884,600
大 学 院	修 士 課 程	国立	1,202,100 (1.00)	1,433,700 (1.19)	1,859,400 (1.55)
		公立	1,311,400 (1.09)	1,549,000 (1.29)	1,841,200 (1.53)
		私立	1,693,600 (1.41)	2,087,400 (1.74)	2,386,100 (1.98)
		平均	1,446,600	1,593,200	1,977,800
	博 士 課 程	国立	1,699,600 (1.00)	1,588,200 (0.93)	2,314,100 (1.36)
		公立	1,868,300 (1.10)	1,963,500 (1.16)	2,510,600 (1.48)
		私立	1,986,700 (1.17)	2,102,200 (1.24)	2,660,000 (1.57)
		平均	1,804,600	1,676,700	2,389,800
	学 位 課 程 専 門 職	国立	1,496,400 (1.00)	1,722,000 (1.15)	2,108,900 (1.41)
		公立	1,854,600 (1.24)	1,225,800 (0.82)	2,295,400 (1.53)
		私立	2,349,300 (1.57)	2,538,100 (1.70)	2,850,600 (1.90)
		平均	2,104,400	1,781,200	2,532,500

(注) カッコ ( ) 内の数値は、国立(短期大学は公立)の自宅を基準(1.00)とした場合の指数。

第3図 居住形態別学生生活費の支出状況(月額)〔大学昼間部平均〕



(注) 自宅は住居・光熱費のデータなし。

(6) 地域別・居住形態別学生生活費 (F表、第4図)

大学昼間部について学生生活費を地域別に比較すると、国・公・私立全体の平均では、「東京圏<sup>(注1)</sup>」が最も高く、「京阪神<sup>(注1)</sup>」、「その他<sup>(注1)</sup>」の順となっている。設置者別・居住形態別にみると、最も高いのは私立の「東京圏」のアパート等居住の学生（以下「アパート等」）で約261.5万円となっている。さらに学生生活費のうち生活費について全国平均値と比べてみると、いずれの居住形態においても、「東京圏」は平均値を上回り、「その他」は平均値を下回っている。

F-1表 地域別・居住形態別学生生活費(大学昼間部) (単位：円)

区分	東京圏			京阪神			その他			全国平均			
	学費	生活費	合計	学費	生活費	合計	学費	生活費	合計	学費	生活費	合計	
国公立平均	1,380,700	665,900	2,046,600	1,225,100	607,500	1,832,600	1,047,200	689,200	1,736,400	1,195,300	666,800	1,862,100	
国立	自宅	735,400	427,900	1,163,300	723,700	371,600	1,095,300	704,900	385,000	1,089,900	711,200	388,100	1,099,300
	学寮	616,900	1,008,200	1,625,100	741,700	899,800	1,641,500	534,800	699,300	1,234,100	564,900	758,200	1,323,100
	アパート等	649,500	1,386,100	2,035,600	629,500	1,184,200	1,813,700	620,700	1,055,000	1,675,700	623,700	1,090,900	1,714,600
	平均	682,600	956,200	1,638,800	672,400	846,500	1,518,900	640,400	840,900	1,481,300	647,700	851,700	1,499,400
公立	自宅	739,100	426,900	1,166,000	731,000	394,000	1,125,000	721,000	362,200	1,083,200	724,600	374,200	1,098,800
	学寮	926,000	1,335,500	2,261,500	555,800	734,700	1,290,500	673,200	656,100	1,329,300	660,900	677,100	1,338,000
	アパート等	598,900	1,174,200	1,773,100	651,600	1,056,200	1,707,800	625,700	1,012,400	1,638,100	626,700	1,022,700	1,649,400
	平均	687,700	715,100	1,402,800	694,000	662,800	1,356,800	660,600	773,600	1,434,200	666,300	756,600	1,422,900
私立	自宅	1,415,600	415,000	1,830,600	1,360,800	400,100	1,760,900	1,313,900	380,600	1,694,500	1,369,400	400,200	1,769,600
	学寮	1,231,700	913,200	2,144,900	1,065,600	764,500	1,830,100	1,231,300	791,800	2,023,100	1,201,900	841,800	2,043,700
	アパート等	1,474,400	1,140,700	2,615,100	1,272,600	991,400	2,264,000	1,322,700	913,000	2,235,700	1,374,500	1,016,000	2,390,500
	平均	1,421,600	651,300	2,072,900	1,322,500	572,800	1,895,300	1,312,300	599,300	1,911,600	1,361,600	616,600	1,978,200

短期大学昼間部の自宅居住の学生（以下「自宅」）とアパート等について地域別に生活費を比較すると、大学昼間部同様に、いずれの居住形態においても「東京圏」が全国平均を上回り、「その他」が全国平均を下回っている。

F-2表 地域別・居住形態別学生生活費(短期大学昼間部) (単位：円)

区分	東京圏			京阪神			その他			全国平均			
	学費	生活費	合計	学費	生活費	合計	学費	生活費	合計	学費	生活費	合計	
公立	自宅	648,000	722,000	1,370,000	-	-	-	556,600	307,100	863,700	556,900	308,300	865,200
	アパート等	385,000	1,395,000	1,780,000	490,000	110,000	600,000	489,900	796,500	1,286,400	489,500	797,300	1,286,800
私立	自宅	1,233,200	395,800	1,629,000	1,198,500	357,000	1,555,500	1,126,000	324,200	1,450,200	1,162,900	346,600	1,509,500
	アパート等	1,196,000	1,040,000	2,236,000	1,005,100	939,400	1,944,500	1,044,600	858,200	1,902,800	1,069,500	904,300	1,973,800

大学院<sup>(注2)</sup>の各課程の自宅とアパート等について地域別に生活費を比較すると、アパート等の生活費は、「東京圏」が「その他」より概ね高い傾向がみられた。

F-3表 地域別・居住形態別学生生活費(大学院) (単位：円)

区分	東京圏			京阪神			その他			全国平均				
	学費	生活費	合計	学費	生活費	合計	学費	生活費	合計	学費	生活費	合計		
修士課程	国立	自宅	701,700	547,400	1,249,100	696,200	486,700	1,182,900	677,800	511,700	1,189,500	687,300	514,800	1,202,100
		アパート等	566,300	1,468,700	2,035,000	612,200	1,315,800	1,928,000	581,200	1,222,000	1,803,200	585,000	1,274,400	1,859,400
	公立	自宅	699,800	514,100	1,213,900	712,200	598,500	1,310,700	717,800	611,300	1,329,100	714,000	597,400	1,311,400
		アパート等	657,500	1,365,200	2,022,700	613,300	1,313,000	1,926,300	623,800	1,171,600	1,795,400	622,800	1,218,400	1,841,200
私立	自宅	1,197,500	561,500	1,759,000	1,120,700	511,300	1,632,000	1,008,500	546,800	1,555,300	1,143,300	550,300	1,693,600	
	アパート等	1,106,600	1,377,800	2,484,400	1,025,200	1,210,800	2,236,000	1,050,200	1,181,500	2,231,700	1,081,200	1,304,900	2,386,100	
博士課程	国立	自宅	734,600	827,400	1,562,000	754,800	989,000	1,743,800	744,100	1,028,000	1,772,100	743,400	956,200	1,699,600
		アパート等	599,800	1,807,000	2,406,800	539,200	1,727,000	2,266,200	615,900	1,683,500	2,299,400	594,800	1,719,300	2,314,100
	公立	自宅	759,800	1,400,400	2,160,200	807,700	862,100	1,669,800	756,900	1,207,800	1,964,700	777,600	1,090,700	1,868,300
		アパート等	785,800	2,007,600	2,793,400	612,500	1,523,500	2,136,000	738,800	1,894,600	2,633,400	708,100	1,802,500	2,510,600
私立	自宅	967,100	996,400	1,963,500	956,300	1,012,600	1,968,900	990,800	1,089,400	2,080,200	970,400	1,016,300	1,986,700	
	アパート等	857,900	1,787,000	2,644,900	840,700	1,743,600	2,584,300	860,900	1,877,800	2,738,700	856,500	1,803,500	2,660,000	
専門職学位課程	国立	自宅	833,000	771,900	1,604,900	945,300	551,200	1,496,500	836,300	620,000	1,456,300	862,500	633,900	1,496,400
		アパート等	732,300	1,610,000	2,342,300	739,200	1,529,100	2,268,300	695,600	1,273,500	1,969,100	713,600	1,395,300	2,108,900
	公立	自宅	814,500	759,600	1,574,100	934,300	835,500	1,769,800	808,900	1,876,800	2,685,700	869,100	985,500	1,854,600
		アパート等	686,600	1,816,800	2,503,400	689,900	1,364,900	2,054,800	778,000	850,500	1,628,500	693,700	1,601,700	2,295,400
私立	自宅	1,544,600	926,700	2,471,300	1,293,600	801,900	2,095,500	1,291,600	929,300	2,220,900	1,448,100	901,200	2,349,300	
	アパート等	1,484,900	1,546,200	3,031,100	1,231,600	1,348,200	2,579,800	1,227,400	1,152,200	2,379,600	1,398,300	1,452,300	2,850,600	

(注1)「東京圏」は、東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県をいう。「京阪神」は、京都府・大阪府・兵庫県をいう。

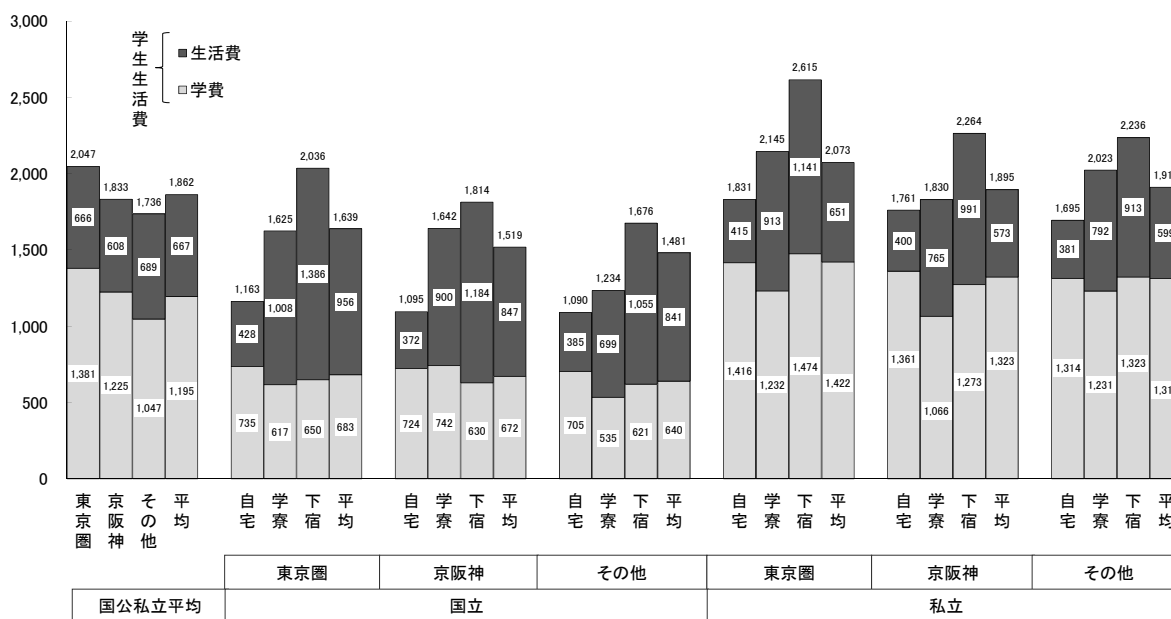
「その他」は、「東京圏」と「京阪神」を除いた地域をいう。

(注2) 大学院は、「配偶者あり」と回答した者は集計に含めていない。



#### 第4図 地域別・居住形態別学生生活費(大学昼間部)

(単位:千円)



※公立大学の結果は「B-1表 居住形態別・地域別学生生活費の内訳」参照。

#### (7) 男女別・居住形態別学生生活費 (G表)

居住形態別の学生生活費の支出について、居住形態別にみると、G表のような結果になった。

大学昼間部について学生生活費をみると、アパート等居住の学生(以下、「アパート等」)の私立女子が約244万円と最も高くなっている。生活費について自宅居住の学生(以下、「自宅」)とアパート等を比較すると、アパート等の支出額が多く、その要因は、「食費、住居・光熱費」で、学生生活費に占める支出額の割合を比べると、私立(男:28.3%、女:29.2%)より国立(男:45.4%、女:44.4%)のほうが大きくなっている。

短期大学昼間部について学生生活費をみると、アパート等の私立女子が約200万円と最も高くなっている。生活費について自宅とアパート等を比較すると、アパート等の支出額が多く、学生生活費に占める「食費、住居・光熱費」の支出額の割合を比べると、私立(男:33.2%、女:30.2%)より国立(男:44.7%、女:42.3%)のほうが大きくなっている。

大学院の学生生活費は、大学と短期大学に比べて支出額が多くなっている。学生生活費に占める「食費、住居・光熱費」の支出額の割合をみると、修士課程でアパート等の国立男子が49.5%と最も高く、これは、全体でみた場合にも最も高い割合となっている。

また、自宅の「食費、住居・光熱費」の支出額は、『外食した時の経費』であるが、大学院博士課程の支出額が多く、最も多かったのは博士課程国立男子(月額換算:約26千円)、最も少額となったのは短期大学昼間部国立女子(月額換算:約4千円)となっている。

G表 男女別・居住形態別学生生活費

(単位：円)

区分			学 費			生 活 費			合 計	
			授 業 料 学校納付金 (割合)	修 学 費 課外活動費 通 学 費 (割合)	小 計	食 費 住居・光熱費 (割合)	保健衛生費 娯楽嗜好費 その他の日常費 (割合)	小 計		
大学昼間部	国立	男	自宅 学寮 アパート等	521,700 (47.0%) 448,700 (34.7%) 516,200 (30.4%)	190,400 (17.2%) 106,500 (8.2%) 107,700 (6.3%)	712,100 555,200 623,900	115,100 (10.4%) 473,400 (36.6%) 772,700 (45.4%)	283,000 (25.5%) 263,900 (20.4%) 304,300 (17.9%)	398,100 737,300 1,077,000	1,110,200 1,292,500 1,700,900
		女	自宅 学寮 アパート等	504,900 (46.6%) 431,100 (31.4%) 506,900 (29.2%)	204,800 (18.9%) 149,300 (10.9%) 116,000 (6.7%)	709,700 580,400 622,900	85,200 (7.9%) 458,200 (33.4%) 771,200 (44.4%)	289,600 (26.7%) 332,600 (24.3%) 344,300 (19.8%)	374,800 790,800 1,115,500	1,084,500 1,371,200 1,738,400
		男	自宅 学寮 アパート等	1,170,300 (67.2%) 1,028,700 (53.3%) 1,278,000 (54.4%)	172,400 (9.9%) 125,500 (6.5%) 99,200 (4.2%)	1,342,700 1,154,200 1,377,200	106,800 (6.1%) 516,400 (26.8%) 664,600 (28.3%)	291,600 (16.8%) 257,800 (13.4%) 306,600 (13.1%)	398,400 774,200 971,200	1,741,100 1,928,400 2,348,400
		女	自宅 学寮 アパート等	1,204,100 (67.1%) 1,126,700 (52.4%) 1,253,300 (51.3%)	189,800 (10.6%) 118,500 (5.5%) 117,700 (4.8%)	1,393,900 1,245,200 1,371,000	88,600 (4.9%) 587,700 (27.4%) 712,700 (29.2%)	313,100 (17.4%) 315,700 (14.7%) 361,000 (14.8%)	401,700 903,400 1,073,700	1,795,600 2,148,600 2,444,700
	私立	男	自宅 学寮 アパート等	388,500 (46.9%) - 414,300 (35.2%)	130,200 (15.7%) - 40,500 (3.4%)	518,700 - 454,800	76,100 (9.2%) - 525,900 (44.7%)	233,800 (28.2%) - 196,300 (16.7%)	309,900 - 722,200	828,600 - 1,177,000
		女	自宅 学寮 アパート等	426,400 (49.2%) 408,800 (44.1%) 441,600 (33.9%)	132,800 (15.3%) 49,000 (5.3%) 53,100 (4.1%)	559,200 457,800 494,700	49,700 (5.7%) 265,100 (28.6%) 551,000 (42.3%)	258,500 (29.8%) 205,100 (22.1%) 256,900 (19.7%)	308,200 470,200 807,900	867,400 928,000 1,302,600
		男	自宅 学寮 アパート等	973,900 (66.7%) 848,200 (44.1%) 943,400 (51.4%)	154,900 (10.6%) 51,200 (2.7%) 72,800 (4.0%)	1,128,800 899,400 1,016,200	69,000 (4.7%) 658,000 (34.2%) 609,500 (33.2%)	261,900 (17.9%) 367,300 (19.1%) 210,500 (11.5%)	330,900 1,025,300 820,000	1,459,700 1,924,700 1,836,200
		女	自宅 学寮 アパート等	1,006,700 (66.4%) 939,400 (53.9%) 983,500 (49.2%)	160,200 (10.6%) 73,100 (4.2%) 95,900 (4.8%)	1,166,900 1,012,500 1,079,400	62,300 (4.1%) 445,900 (25.6%) 604,300 (30.2%)	286,100 (18.9%) 283,800 (16.3%) 315,400 (15.8%)	348,400 729,700 919,700	1,515,300 1,742,200 1,999,100
短期大学昼間部	国立	男	自宅 学寮 アパート等	506,000 (43.6%) 390,600 (27.4%) 500,500 (27.3%)	172,500 (14.9%) 95,300 (6.7%) 77,600 (4.2%)	678,500 485,900 578,100	159,600 (13.7%) 595,400 (41.7%) 908,400 (49.5%)	323,300 (27.8%) 345,500 (24.2%) 347,100 (18.9%)	482,900 940,900 1,255,500	1,161,400 1,426,800 1,833,600
		女	自宅 学寮 アパート等	516,900 (39.8%) 393,200 (27.2%) 508,700 (25.9%)	191,000 (14.7%) 101,100 (7.0%) 103,800 (5.3%)	707,900 494,300 612,500	148,000 (11.4%) 501,200 (34.7%) 922,800 (47.0%)	441,600 (34.0%) 450,200 (31.1%) 427,900 (21.8%)	589,600 951,400 1,350,700	1,297,500 1,445,700 1,963,200
		男	自宅 学寮 アパート等	966,600 (58.7%) 955,300 (42.0%) 960,200 (40.3%)	181,800 (11.1%) 103,000 (4.5%) 115,000 (4.8%)	1,148,400 1,058,300 1,075,200	153,600 (9.3%) 711,400 (31.3%) 921,000 (38.6%)	343,500 (20.9%) 504,200 (22.2%) 388,000 (16.3%)	497,100 1,215,600 1,309,000	1,645,500 2,273,900 2,384,200
		女	自宅 学寮 アパート等	914,700 (51.3%) 806,600 (44.0%) 943,500 (39.5%)	219,400 (12.3%) 90,200 (4.9%) 148,600 (6.2%)	1,134,100 896,800 1,092,100	151,100 (8.5%) 626,900 (34.2%) 892,000 (37.3%)	496,300 (27.9%) 307,900 (16.8%) 405,100 (17.0%)	647,400 934,800 1,297,100	1,781,500 1,831,600 2,389,200
	私立	男	自宅 学寮 アパート等	468,600 (28.0%) 373,200 (23.2%) 418,000 (18.4%)	261,200 (15.6%) 147,900 (9.2%) 170,900 (7.5%)	729,800 521,100 588,900	308,400 (18.4%) 659,900 (41.1%) 1,118,600 (49.3%)	635,600 (38.0%) 426,500 (26.5%) 563,500 (24.8%)	944,000 1,086,400 1,682,100	1,673,800 1,607,500 2,271,000
		女	自宅 学寮 アパート等	453,200 (25.8%) 397,500 (26.2%) 419,600 (17.1%)	319,600 (18.2%) 141,200 (9.3%) 193,700 (7.9%)	772,800 538,700 613,300	217,500 (12.4%) 556,600 (36.7%) 1,104,800 (45.1%)	765,000 (43.6%) 422,300 (27.8%) 729,600 (29.8%)	982,500 978,900 1,834,400	1,755,300 1,517,600 2,447,700
		男	自宅 学寮 アパート等	682,200 (35.0%) 596,300 (27.4%) 660,300 (25.1%)	293,200 (15.0%) 163,800 (7.5%) 197,000 (7.5%)	975,400 760,100 857,300	295,700 (15.2%) 819,100 (37.6%) 1,142,100 (43.4%)	679,300 (34.8%) 600,700 (27.6%) 633,400 (24.1%)	975,000 1,419,800 1,775,500	1,950,400 2,179,900 2,632,800
		女	自宅 学寮 アパート等	669,500 (32.7%) 612,600 (32.2%) 638,700 (23.6%)	292,600 (14.3%) 165,200 (8.7%) 216,300 (8.0%)	962,100 777,800 855,000	238,600 (11.7%) 634,900 (33.4%) 1,093,100 (40.3%)	846,800 (41.4%) 487,200 (25.6%) 763,100 (28.2%)	1,085,400 1,122,100 1,856,200	2,047,500 1,899,900 2,711,200
大学院博士課程	国立	男	自宅 学寮 アパート等	660,000 (43.0%) 491,400 (31.0%) 589,300 (28.3%)	224,500 (14.6%) 123,900 (7.8%) 133,000 (6.4%)	884,500 615,300 722,300	195,900 (12.8%) 510,900 (32.2%) 986,500 (47.4%)	454,400 (29.6%) 460,000 (29.0%) 372,200 (17.9%)	650,300 970,900 1,358,700	1,534,800 1,586,200 2,081,000
		女	自宅 学寮 アパート等	591,700 (41.5%) 439,600 (21.7%) 546,500 (25.2%)	231,100 (16.2%) 174,000 (8.6%) 147,100 (6.8%)	822,800 613,600 693,600	131,300 (9.2%) 636,400 (31.4%) 956,000 (44.0%)	472,900 (33.1%) 775,300 (38.3%) 521,500 (24.0%)	604,200 1,411,700 1,477,500	1,427,000 2,025,300 2,171,100
		男	自宅 学寮 アパート等	1,234,000 (51.4%) 1,361,700 (47.2%) 1,211,700 (41.7%)	234,100 (9.8%) 145,100 (5.0%) 181,600 (6.2%)	1,468,100 1,506,800 1,393,300	265,000 (11.0%) 926,600 (32.1%) 1,070,900 (36.8%)	669,000 (27.9%) 452,800 (15.7%) 444,300 (15.3%)	934,000 1,379,400 1,515,200	2,402,100 2,886,200 2,908,500
		女	自宅 学寮 アパート等	1,164,000 (52.2%) 996,000 (48.6%) 1,244,000 (45.3%)	238,900 (10.7%) 112,000 (5.5%) 163,500 (6.0%)	1,402,900 1,108,000 1,407,500	192,800 (8.7%) 696,000 (33.9%) 906,900 (33.0%)	633,100 (28.4%) 247,000 (12.0%) 431,100 (15.7%)	825,900 943,000 1,338,000	2,228,800 2,051,000 2,745,500

※大学昼間部、大学院の各課程の公立については、ページの都合で省略した。

## (8) 学年別の学生生活費 (H表)

学費については同一区分の学年間において大学昼間部の5年次、6年次を除き、大きな差はみられなかった。なお、大学昼間部の5年次、6年次は医・歯学部、獣医学部、薬学部の学生であり、1年次から4年次と比べて2倍程度、学費が高くなっている。生活費については大学院専門職学位課程を除き、年次が上がるにつれて、増加している。

学生生活費の合計をみると、大学昼間部6年次と博士課程4年次の金額がほとんど変わらないが、内訳をみると大学昼間部の学費が232万円(H表内で最高額)、博士課程の学費が84万円と大学昼間部に比べて148万円少なくなっている。反対に、生活費は大学院博士課程4年次で243万円(H表内で最高額)となっている。

### H表 学年別の学生生活費

(単位：円)

区 分			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
大 学	昼 間 部	学 費	1,130,600	1,125,900	1,128,900	1,109,300	2,054,700	2,321,700
		生活費	487,500	582,100	637,700	707,400	893,400	1,000,600
		計	1,618,100	1,708,000	1,766,600	1,816,700	2,948,100	3,322,300
短 期 大 学	昼 間 部	学 費	1,009,100	1,048,600	1,103,800	…	…	…
		生活費	386,100	460,000	493,300	…	…	…
		計	1,395,200	1,508,600	1,597,100	…	…	…
大 学 院	修 士 課 程	学 費	779,900	751,800	…	…	…	…
		生活費	906,800	980,100	…	…	…	…
		計	1,686,700	1,731,900	…	…	…	…
	博 士 課 程	学 費	689,800	688,700	682,000	842,800	…	…
		生活費	1,314,000	1,395,600	1,403,500	2,432,100	…	…
		計	2,003,800	2,084,300	2,085,500	3,274,900	…	…
	学 位 専 門 職 課 程	学 費	1,120,200	1,077,600	1,126,400	…	…	…
		生活費	1,121,700	1,039,600	959,200	…	…	…
		計	2,241,900	2,117,200	2,085,600	…	…	…

## 2. 学生の収入の状況 (I表、第5図)

学生生活費は、家庭からの給付、奨学金及びアルバイト収入等で賄われているが、上級課程へ進むほど、家庭からの給付額が少なくなるなど収入構成に差異がみられた。その状況はI表、第5図のとおりである。

### ① 大学昼間部

大学昼間部(国・公・私立平均)の家庭からの給付額は約119万円(月額約9万9千円)であり、収入総額(約197万円)に占める家庭からの給付額の割合は60.6%となった。前回調査では収入総額に占める家庭からの給付額の割合は60.8%であり、ほとんど変化がみられなかった。設置者別にみると、公立の収入総額は国立・私立に比べて少なくなった。

## ②短期大学昼間部

短期大学昼間部については、家庭からの給付額は約 93 万円(月額約 7 万 8 千円)で、収入総額(約 168 万円)に占める割合は 55.4%と過去 10 年の調査で最も低い割合となった。

## ③大学院<sup>(※)</sup>

修士課程の家庭からの給付額は、国・公・私立の平均で約 91 万円(月額約 7 万 6 千円)であり、収入総額(約 191 万円)に占める家庭からの給付額の割合は 47.8%となっている。

博士課程の家庭からの給付額は、国・公・私立の平均で約 39 万円(月額約 3 万 2 千円)であり、収入総額(約 283 万円)に占める家庭からの給付額の割合は 13.8%と低いが、アルバイト及び定職・その他の占める割合は、家庭からの給付額が低いこともあって、52.5%となっており、金額の合計では 148 万円となっている。

専門職学位課程の家庭からの給付額は、国・公・私立の平均で約 91 万円(月額約 7 万 6 千円)であり、収入総額(約 265 万円)に占める家庭からの給付額の割合は 34.5%で、金額・割合ともに、調査開始以降で最も少なく(小さく)なった。また、収入総額(約 265 万円)に占める定職・その他の割合は 35.4%と、全学校種別で最も高くなっている。

(※) 大学院については、「配偶者あり」と回答したものを除き集計していることや社会人学生が大学昼間部や短期大学昼間部に比べて多いこと等、資料の取扱いには留意を要する。

**I表 収入及びその構成割合**

(単位：円)

区 分		家庭からの給付	奨 学 金	アルバイト	定職・その他	収入総額
大 学 昼 間 部	国 立	(58.9) 951,800	(21.4) 345,900	(17.1) 276,000	(2.6) 42,700	(100.0) 1,616,400
	公 立	(53.1) 824,600	(23.5) 364,400	(20.6) 319,800	(2.8) 44,000	(100.0) 1,552,800
	私 立	(61.2) 1,276,400	(19.9) 415,200	(16.0) 332,800	(2.9) 59,700	(100.0) 2,084,100
	男	(59.6) 1,161,500	(21.0) 409,600	(16.5) 321,800	(2.9) 57,200	(100.0) 1,950,100
	女	(61.6) 1,228,600	(19.5) 389,400	(16.1) 321,800	(2.7) 54,300	(100.0) 1,994,100
	平 均	(60.6) 1,193,800	(20.3) 400,000	(16.3) 321,800	(2.8) 55,800	(100.0) 1,971,400
短期大学昼間部		(55.4) 931,300	(24.0) 402,500	(15.6) 261,900	(5.0) 84,100	(100.0) 1,679,800
大 学 院	修士課程	(47.8) 914,800	(25.7) 491,600	(14.5) 276,900	(12.1) 231,300	(100.0) 1,914,600
	博士課程	(13.8) 388,500	(33.7) 953,400	(22.2) 626,000	(30.3) 857,400	(100.0) 2,825,300
	専門職学位課程	(34.5) 914,900	(25.6) 679,000	(4.4) 117,300	(35.4) 937,700	(100.0) 2,648,900

(注1) カッコ( )内の数値は、収入総額に占める割合。

(注2) 大学院のアルバイトには、ティーチングアシスタント(TA)とリサーチアシスタント(RA)を含む。

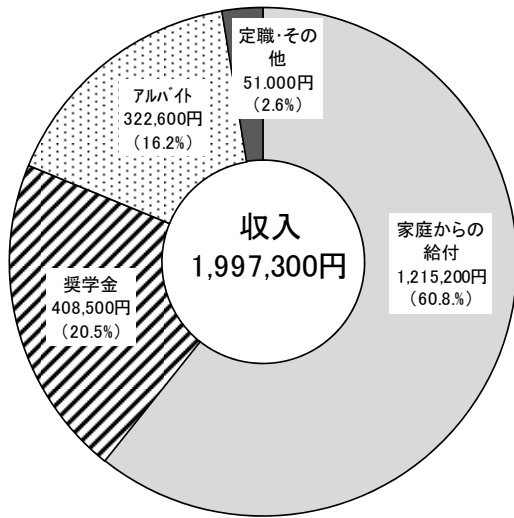
(注3) 大学院の結果には「配偶者あり」と回答した者を含めていない。

## 第5図 収入額内訳

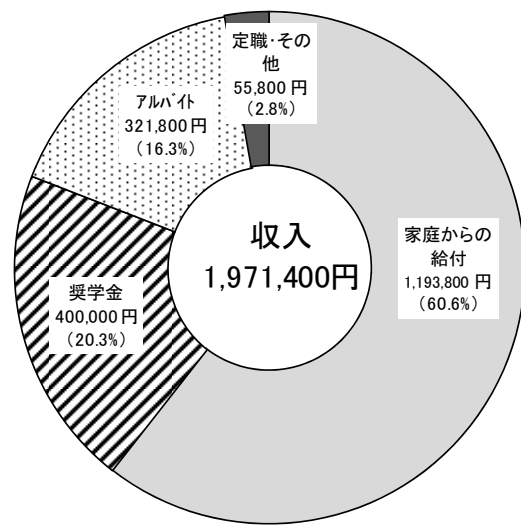
平成24年度

平成26年度

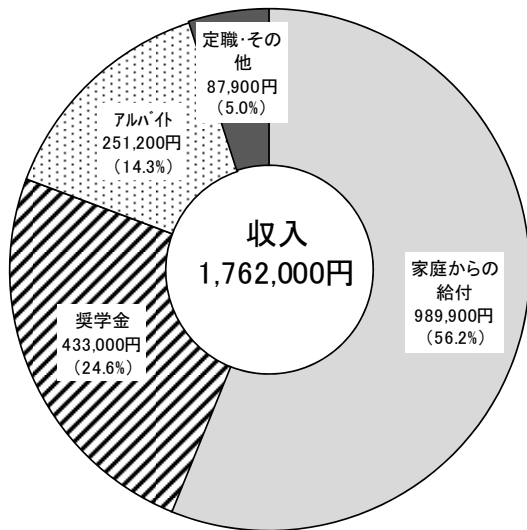
【大学昼間部】



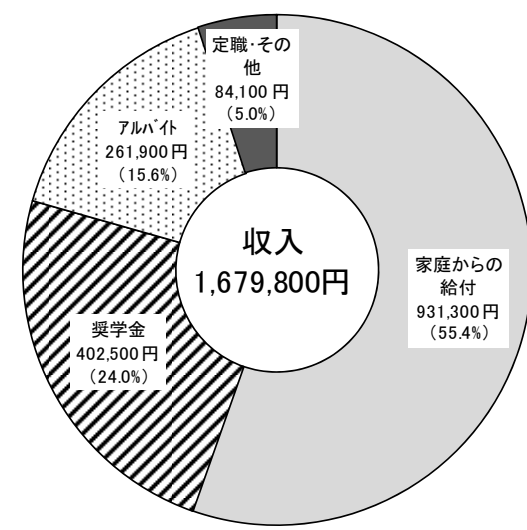
⇒



【短期大学昼間部】

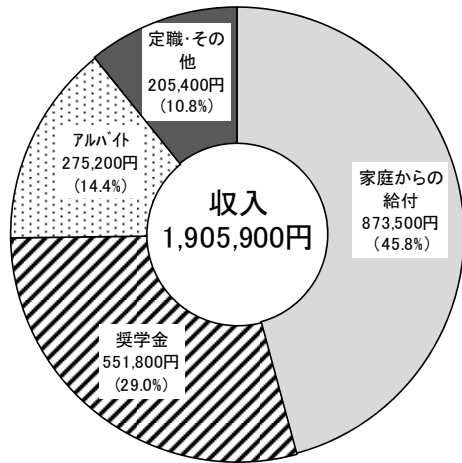


⇒

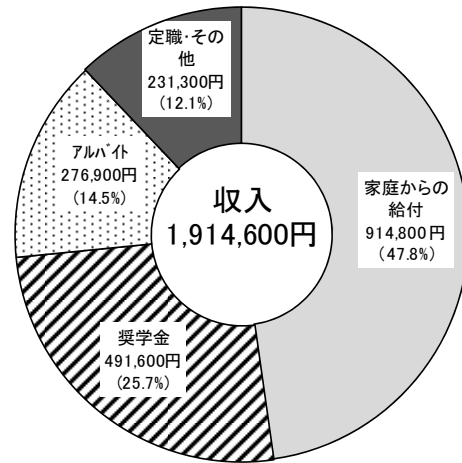


平成24年度

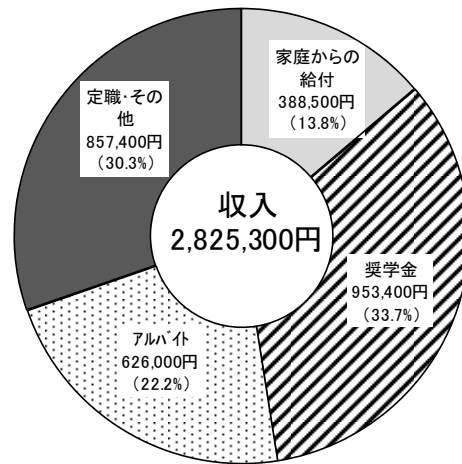
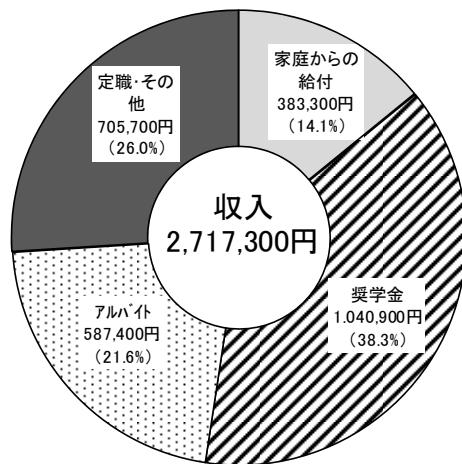
【大学院修士課程】



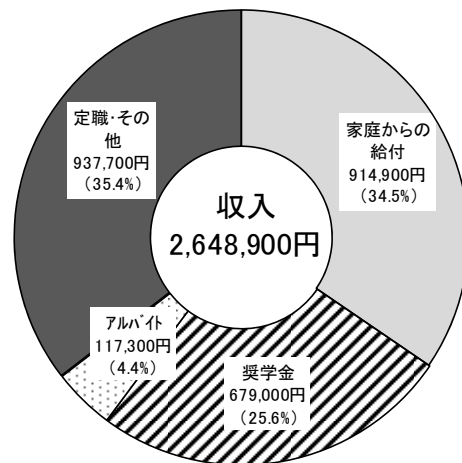
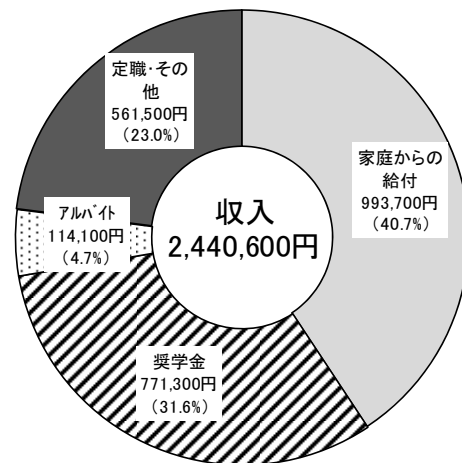
平成26年度



【大学院博士課程】



【大学院専門職学位課程】



### 3. 家庭からの給付額等

#### (1) 家庭からの給付 (J表、K表)

大学・短期大学の昼間部における家庭からの給付額は、大学が約 119 万円で、短期大学の約 93 万円に比べて約 26 万円高く、平成 18 年度以降で差額が最も大きくなった。

学生生活費に対する家庭からの給付額の割合は、いずれも減少傾向にあるが、前回調査からは大きな変化はみられず、大学が 64.1%、短期大学が 58.9%となった。

家庭からの年間平均収入 (K表) に占める家庭からの給付額の割合は、大学が 14.5%、短期大学が 14.2%であり、大学については平成 18 年度から連続して減少している (\*1)。

大学院の家庭からの給付額は、修士課程が約 91 万円、博士課程が約 39 万円、専門職学位課程が約 91 万円と、修士課程と専門職学位課程の金額が同程度となった。

学生生活費に対する家庭からの給付額の割合をみると、修士課程の 52.3%に比べて専門職学位課程は 40.0%と、12.3 ポイント小さい。また、博士課程は、大学院の中で家庭からの給付額が最も少なく、学生生活費に対する割合も 18.0%と修士課程と比べて 34.3 ポイント小さくなっている。博士課程と専門職学位課程の場合、学費 (A表参照) よりも家庭からの給付額が少なくなっている。

家庭の年間平均収入に占める家庭からの給付額の割合は、修士課程が 11.6%、博士課程が 5.3%、専門職学位課程が 11.5%となっており、年間平均収入が同程度の修士課程と専門職学位課程では、年間平均収入に占める家庭からの給付額は同程度となっている。一方、博士課程の年間平均収入に占める家庭からの給付額の割合は、大学院の中で最も小さくなった (\*2)。

(\*1) 《資料 3》過去 10 年間の学生生活費 (1) 大学昼間部・短期大学昼間部第 12 表参照

(\*2) 《資料 3》過去 10 年間の学生生活費 (2) 大学院第 11 表参照

**J表 家庭からの給付額の推移**

(単位:円)

区分		年度	平成18年度	平成20年度	平成22年度	平成24年度	平成26年度
大学昼間部	家庭からの給付額		1,496,300	1,449,400	1,227,500	1,215,200	1,193,800
	$\frac{\text{給付額}}{\text{学生生活費}} \times 100$		79.0 %	78.0 %	67.1 %	64.6 %	64.1 %
短期大学昼間部	家庭からの給付額		1,269,000	1,211,800	993,100	989,900	931,300
	$\frac{\text{給付額}}{\text{学生生活費}} \times 100$		77.4 %	76.7 %	62.4 %	59.9 %	58.9 %
大学院	修士課程	家庭からの給付額	1,060,900	1,031,700	932,100	873,500	914,800
		$\frac{\text{給付額}}{\text{学生生活費}} \times 100$	60.6 %	59.2 %	53.8 %	50.3 %	52.3 %
	博士課程	家庭からの給付額	521,200	459,000	378,800	383,300	388,500
		$\frac{\text{給付額}}{\text{学生生活費}} \times 100$	25.0 %	22.4 %	17.9 %	18.1 %	18.0 %
	専門職学位課程	家庭からの給付額	1,139,500	1,149,200	1,039,700	993,700	914,900
		$\frac{\text{給付額}}{\text{学生生活費}} \times 100$	49.4 %	51.7 %	46.3 %	45.3 %	40.0 %

## (2) 家庭の年間平均収入 (K表)

家庭の年間平均収入を設置者別にみると、私立に通う学生の家庭が高く、公立が低い傾向がみられた。

過去5回の調査の平均をみると、いずれも減少傾向にあるが、前回調査からみると、大学夜間部と専門職学位課程を除き、若干の増加がみられた。

なお、家庭の年間平均収入に関しては、各家庭の主たる家計支持者の年齢、職業などに左右されることや、大学院の集計では「配偶者あり」と回答した結果を除いていることなど、調査結果を利用する際は留意が必要である。

**K表 家庭の年間平均収入**

(単位：千円)

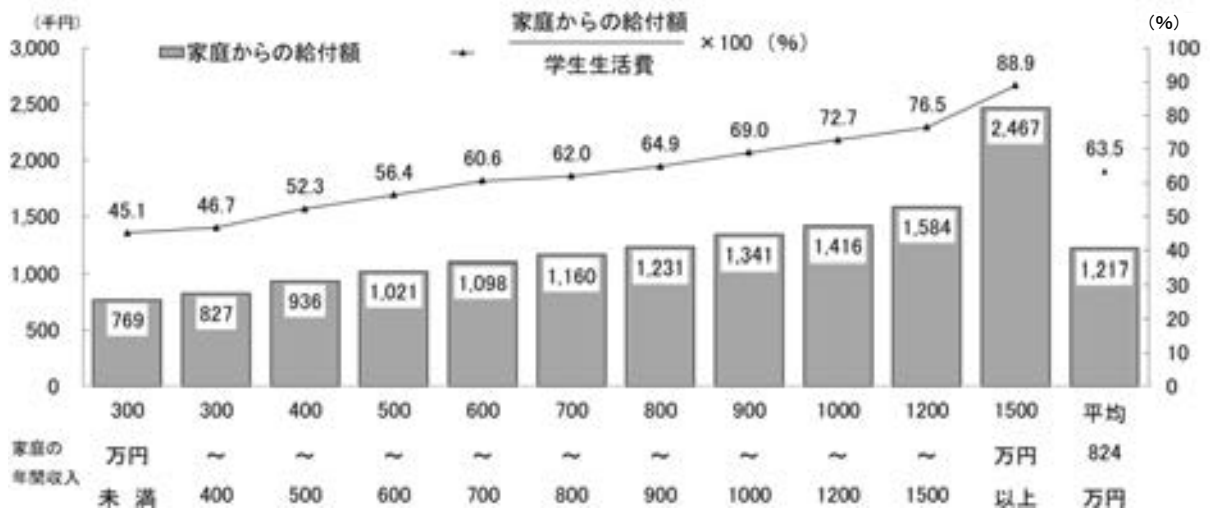
区 分	大 学		短期大学		大 学 院			
	昼間部	夜間部	昼間部	夜間部	修士課程	博士課程	専門職 学位課程	
平成 26 年 度	国 立	8,390	5,260	...	...	7,870	6,840	7,760
	公 立	7,330	5,790	5,790	4,490	6,470	6,070	5,370
	私 立	8,260	6,230	6,620	5,420	8,250	9,140	8,330
	平 均	(1.5)	(△8.9)	(3.9)	(5.3)	(1.5)	(6.4)	(△22.1)
参 考	平成24年	8,240	5,930	6,580	5,120	7,910	7,340	7,990
		(1.9)	(5.7)	(0.0)	(△7.4)	(△2.0)	(△7.4)	(17.5)
	平成22年	8,120	6,510	6,330	4,860	7,790	6,900	10,260
		(△3.0)	(△10.9)	(△4.4)	(△8.5)	(△1.9)	(△0.1)	(△0.5)
	平成20年	7,970	6,160	6,330	5,250	7,950	7,450	8,730
		(△2.8)	(0.0)	(△6.5)	(6.5)	(1.5)	(△4.1)	(2.8)
	平成18年	8,220	6,910	6,620	5,740	8,100	7,460	8,770
		(0.5)	(1.3)	(△7.1)	(△13.2)	(△4.0)	(△3.2)	
	8,460	6,910	7,080	5,390	7,980	7,780	8,530	

(注) ( )は、直前の調査に対する増減率(%)である。

## (3) 家庭の年間収入別学生生活費に対する家庭からの給付の割合 (第6図)

大学昼間部について家庭の収入額と家庭からの給付額の間をみると、家庭の年間平均収入が高くなるにつれて家庭からの給付額も高く、また、学生生活費に対する家庭からの給付額の割合も高くなっている。

**第6図 家庭の年間収入別学生生活費に対する家庭からの給付の割合(大学昼間部)**





**(4) 家庭の収入階層区別学生数(大学昼間部)の割合<sup>(注)</sup> (L表)**

国・公・私立のいずれにおいても第Ⅰ五分位の割合が最も多くなった。設置者別にみると、国立と私立は各五分位の差が小さく、概ね2割ずつ分布しているが、公立では、年収の低い第Ⅰ五分位から最も高い第Ⅴ五分位にかけて段階的に学生数の割合が少なくなっている。

平成24年度と比較すると、国立と公立は、第Ⅰ五分位と第Ⅴ五分位が増加している。国立は、第Ⅰ五分位で0.5ポイント、第Ⅴ五分位で1.3ポイント増加し、公立は、第Ⅰ五分位で2.9ポイント、第Ⅴ五分位で0.7ポイント増加した。私立は、第Ⅰ五分位で2.7ポイント、第Ⅱ五分位で0.3ポイント増加しており、第Ⅰ五分位はいずれも増加しているが、国立に比べると公立と私立は2ポイント以上の増加となっている。

なお、L表については、五分位階層の金額区分において、平成24年度に比べて第Ⅰ五分位で33千円減少し、第Ⅴ五分位で71千円増加していることにも留意する必要がある。

(注) 総務省家計調査(平成26年)から全国全世帯の45～54歳の世帯主(学生の家庭の世帯主年齢と想定)を抜き出して、その五分位階層区分(集計世帯を収入額の低いものから高いものへ順に並べ、その世帯数を5等分したもので、収入額の低いグループから高い方へ順に第Ⅰ～第Ⅴと区分したものを)を推計し、これに大学昼間部の家庭の年間収入別学生数を当てはめたものである。

**L表 家庭の収入階層区別学生数の割合【45～54歳の世帯主】(大学昼間部)** (単位: %)

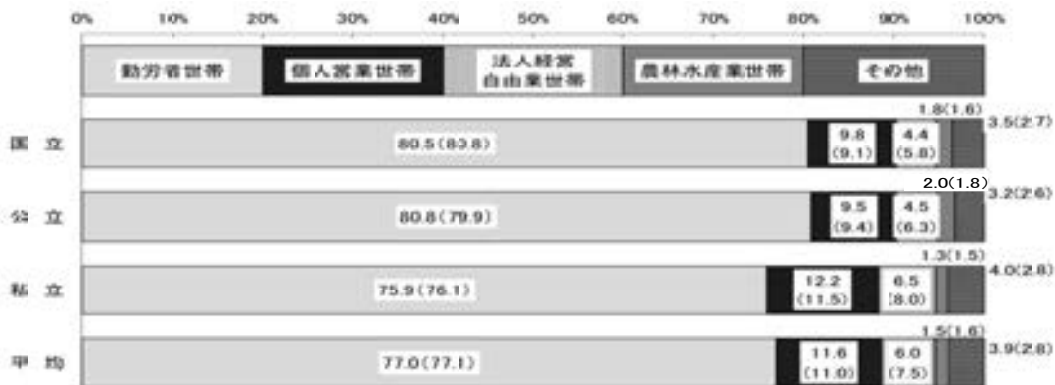
区分	第Ⅰ五分位	第Ⅱ五分位	第Ⅲ五分位	第Ⅳ五分位	第Ⅴ五分位
	千円 (~4,910) 4,877千円未満	千円 (4,910~6,544) 4,877千円以上 6,580千円未満	千円 (6,544~8,101) 6,580千円以上 8,158千円未満	千円 (8,101~10,210) 8,158千円以上 10,281千円未満	千円 (10,210~) 10,281千円以上
国立	(21.1)	(18.6)	(20.1)	(21.4)	(18.8)
	21.6	18.4	19.8	20.1	20.1
公立	(23.8)	(22.4)	(21.0)	(18.5)	(14.3)
	26.7	21.6	19.9	16.8	15.0
私立	(20.9)	(19.4)	(19.9)	(21.4)	(18.4)
	23.6	19.7	19.2	19.4	18.1
平均	(21.1)	(19.4)	(20.0)	(21.3)	(18.3)
	23.4	19.6	19.3	19.4	18.3

(注) ( )は、平成24年度調査の額及び割合である。

**(5) 主たる家計支持者の世帯区別学生数(大学昼間部)の割合 (第7図)**

大学昼間部の設置者区別の勤労者世帯の学生数の割合は、いずれも勤労者世帯が多く、前回調査に比べてほとんど変わらないが、全ての設置者に共通して、法人経営・自由業の世帯で減少、個人営業とその他で増加という変化がみられた。

**第7図 主たる家計支持者の世帯区別学生数の割合(大学昼間部)**



(注) ( )は、平成24年度調査の割合である。

#### 4. アルバイトの従事状況

##### (1) アルバイトの従事状況 (M表、第8図)

最近1年間<sup>(注1)</sup>においてアルバイトに従事した経験を有する者(以下、「アルバイト従事者」という)<sup>(注2)</sup>の状況は、次のとおりである。

大学昼間部のアルバイト従事者は73.2%で、前回調査に比べて0.8ポイント減となった。アルバイト従事者について、家庭からの給付と修学状況をみると、「家庭からの給付のみでは修学に不自由・修学継続困難」<sup>(注3)</sup>な者が35.0%(47.8%)<sup>(注4)</sup>、「家庭からの給付のみで修学可能」な者が38.3%(52.3%)となった。

短期大学昼間部のアルバイト従事者は70.5%で、前回調査に比べて5.8ポイント増となった。アルバイト従事者について、家庭からの給付と修学状況をみると、「家庭からの給付のみでは修学に不自由・修学継続困難」な者が33.7%(47.8%)、「家庭からの給付のみで修学可能」な者が36.8%(52.2%)となった。

大学院のアルバイト従事者は、修士課程が77.6%、博士課程が68.6%、専門職学位課程が31.9%となった。アルバイト従事者について、家庭からの給付と修学状況をみると、「家庭からの給付のみでは修学に不自由・修学継続困難」については、博士課程が53.9%(78.6%)と大学院の中で最も多い。一方、「家庭からの給付のみで修学可能」な者が最も多いのは修士課程の34.0%(43.8%)で、「家庭からの給付のみで修学可能」な者は、すべての課程で前回調査に比べて増加した。

(注1) 平成25年12月～平成26年11月

(注2) 「大学院」のアルバイト従事者にはティーチングアシスタント(TA)とリサーチアシスタント(RA)を含む。

(注3) 「家庭からの給付のみでは修学不自由・修学継続困難」に「家庭からの給付なし」と回答した者も含む。

(注4) ( )内の数値%は、アルバイト従事者を100%とした割合を示す。

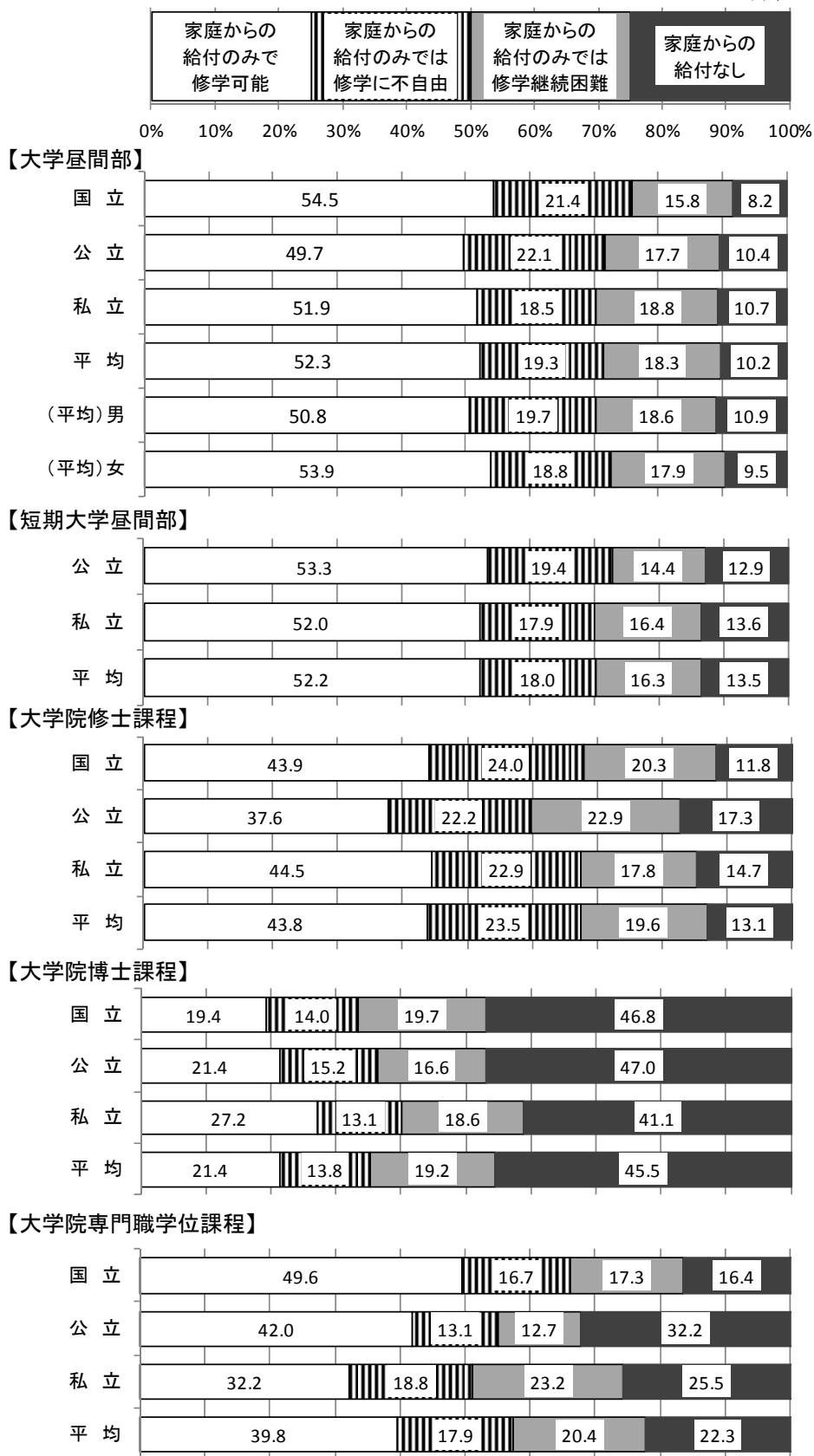
M表 アルバイトの従事状況

(単位:%)

区 分			平成 24年度	平成 26年度	
大 学 部	昼 間 部	アルバイト 従事者	家庭からの給付のみで修学可能	33.7	38.3
			家庭からの給付のみでは修学不自由・困難	40.3	35.0
			計	74.0	73.2
	アルバイト非従事者		26.0	26.8	
短 期 大 学 部	昼 間 部	アルバイト 従事者	家庭からの給付のみで修学可能	27.7	36.8
			家庭からの給付のみでは修学不自由・困難	37.0	33.7
			計	64.7	70.5
	アルバイト非従事者		35.3	29.5	
大 学 院	修 士 課 程	アルバイト 従事者	家庭からの給付のみで修学可能	28.2	34.0
			家庭からの給付のみでは修学不自由・困難	50.1	43.6
			計	78.3	77.6
		アルバイト非従事者		21.7	22.4
	博 士 課 程	アルバイト 従事者	家庭からの給付のみで修学可能	10.8	14.7
			家庭からの給付のみでは修学不自由・困難	59.1	53.9
			計	70.0	68.6
		アルバイト非従事者		30.0	31.4
学 位 課 程	専 門 職	アルバイト 従事者	家庭からの給付のみで修学可能	10.8	12.7
			家庭からの給付のみでは修学不自由・困難	22.1	19.3
			計	32.8	31.9
	アルバイト非従事者		67.2	68.1	

第8図 アルバイト従事者の経済状況

(単位：%)



(注1)各図の数値は、学生生活調査結果集計表Ⅰ・大学・短期大学のH-1表、H-2表、同Ⅱ・大学院のH-1表、H-2表、H-3表を基に、全学生のうち、アルバイト従事者を100とした割合。  
 (注2)大学院は、ティーチングアシスタント(TA)とリサーチアシスタント(RA)従事者を含む。

## (2) アルバイト従事時期別学生数の割合 (N表、第9図)

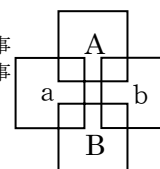
アルバイト従事時期別の学生数の割合は、N表<sup>(※)</sup>の結果となった。

大学昼間部では、経常的にアルバイトに従事した学生は、授業期間中が86.6%、長期休暇中が83.9%となった。短期大学昼間部では、経常的にアルバイトに従事した学生は、授業期間中が87.3%、長期休暇中が85.5%となった。大学院では、経常的にアルバイトに従事した学生は、いずれの課程も大学と短期大学より少なかった。修士課程では、授業期間中が76.8%、長期休暇中が74.8%、博士課程では、授業期間中が79.3%、長期休暇中が74.6%、専門職学位課程では、授業期間中が73.0%、長期休暇中が70.9%となった。

全体的にみると、長期休暇中は、臨時的(不定期)に従事する学生が授業期間中より多く、経常的に従事する学生は、授業期間中より少なかった。

(※) アルバイト従事時期(状況)は、平成22年度調査から「授業期間中」と「長期休暇中」のそれぞれに問いを設けている。両方について回答があった場合、前回までは平成20年度までの設問に回答を変換(以下参照)して集計したが、いずれも臨時的に従事などのケースもあるため、調査票の設問のとおり集計を行なった。

- A : 授業期間中のみ臨時的に従事    B : 授業期間中のみ経常的に(週1日以上)従事
- a : 長期休暇中のみ臨時的に従事    b : 長期休暇中のみ経常的に(週1日以上)従事
- A a : 授業期間中、長期休暇中ともに、臨時的に従事
- A b : 授業期間中は臨時的、長期休暇中は経常的に従事
- B a : 授業期間中は経常的、長期休暇中は臨時的に従事
- B b : 授業期間中は経常的、長期休暇中は経常的に従事



N表 アルバイト従事時期別学生数の割合

(単位: %)

区分	授業期間中					長期休暇中						
	臨時的 (不定期)	週1、2日	週3日以上	経常的	計	臨時的 (不定期)	週1、2日	週3日以上	経常的	計		
大学昼間部	国立	14.8	42.6	42.6	85.2	100.0	19.5	22.9	57.6	80.5	100.0	
	公立	14.5	35.9	49.6	85.5	100.0	16.1	16.9	67.1	84.0	100.0	
	私立	13.0	35.4	51.6	87.0	100.0	15.4	15.3	69.3	84.6	100.0	
	平均	13.4	36.7	49.9	86.6	100.0	16.2	16.7	67.2	83.9	100.0	
短期大学昼間部	公立	15.4	38.0	46.6	84.6	100.0	18.8	13.6	67.5	81.1	100.0	
	私立	12.6	35.0	52.5	87.5	100.0	14.4	13.4	72.3	85.7	100.0	
	平均	12.7	35.1	52.2	87.3	100.0	14.6	13.4	72.1	85.5	100.0	
大学院	修士課程	国立	22.2	53.0	24.8	77.8	100.0	23.6	40.2	36.2	76.4	100.0
		公立	24.3	47.8	27.9	75.7	100.0	25.0	34.1	40.9	75.0	100.0
		私立	25.0	50.8	24.3	75.1	100.0	28.2	33.3	38.5	71.8	100.0
		平均	23.2	52.0	24.8	76.8	100.0	25.2	37.5	37.3	74.8	100.0
	博士課程	国立	21.4	53.6	25.0	78.6	100.0	26.1	45.2	28.7	73.9	100.0
		公立	24.7	52.2	23.1	75.3	100.0	26.4	44.0	29.6	73.6	100.0
		私立	18.6	55.4	25.9	81.3	100.0	23.8	45.5	30.7	76.2	100.0
		平均	20.7	54.1	25.2	79.3	100.0	25.4	45.2	29.4	74.6	100.0
	専門職学位課程	国立	27.3	55.4	17.3	72.7	100.0	28.6	38.3	33.1	71.4	100.0
		公立	41.5	31.1	27.4	58.5	100.0	38.8	30.6	30.6	61.2	100.0
		私立	25.5	46.8	27.7	74.5	100.0	28.6	30.3	41.1	71.4	100.0
		平均	27.0	49.5	23.5	73.0	100.0	29.0	33.4	37.5	70.9	100.0

(注) 大学院は、ティーチングアシスタント(TA)及びリサーチアシスタント(RA)従事者を含まない。

【参考】平成24年度 大学昼間部

区分	授業期間中				長期休暇中						
	臨時的 (不定期)	週1、2日	週3日以上	経常的	計	臨時的 (不定期)	週1、2日	週3日以上	経常的	計	
大学昼間部	国立	14.2	41.9	44.0	85.9	100.1	19.6	22.7	57.8	80.5	100.0
	公立	11.7	37.0	51.3	88.3	100.0	16.5	17.8	65.8	83.6	100.0
	私立	12.3	35.9	51.8	87.7	100.0	15.5	15.9	68.6	84.5	100.0
	平均	12.6	37.0	50.4	87.4	100.0	16.3	17.2	66.6	83.8	100.0

第9図 アルバイト従事時期別学生数の割合の推移

(単位：%)



(注) 大学院は、ティーチングアシスタント(TA)及びリサーチアシスタント(RA)従事者を含まない。

**(3) アルバイト従事職種別学生数の割合 (0表、第10図)**

アルバイトに従事した職種別の学生数の割合は、0表<sup>(※)</sup>にみられるように、学校種別によって異なる結果となっている。なお、本設問は、いずれかの期間に従事した主な職種について聞いた結果である。

大学昼間部では、軽労働が73.6%、次いで家庭教師が約12%となった。

短期大学昼間部では、軽労働が約89%と全学校種別の中で最も高く、家庭教師は、約2%と全学校種別の中で最も低い割合となった。

大学院修士課程では、軽労働が約45%、次いで家庭教師が約26%となった。博士課程では、特殊技能・その他が約55%、次いで家庭教師が約21%となった。専門職学位課程では、軽労働が約38%、次いで家庭教師が約24%となった。

大学昼間部の主な職種について、授業期間中に週1～2日アルバイトに従事した学生の割合をみると(第10図)、家庭教師では国立が私立より25.8ポイント多く、販売では私立が国立より13.8ポイント多くなっており、職業別の従事状況については、設置者区分にも留意する必要がある。

(※)平成26年度調査では、アルバイト職種の選択肢を変更したため、前回調査との比較のために、従前の調査項目については「軽労働(合計)」「特殊技能・その他(合計)」欄を設けた。  
 なお、アルバイト従事状況については授業期間中と長期休暇中に分けて質問を設けているが、アルバイト従事職種は、従事期間に関わらず、過去1年間に従事した主な職種について質問している。

**0表 アルバイト従事職種別学生数の割合**

(単位:%)

区分	家庭教師	事務	軽労働				重労働・危険作業	特殊技能・その他			計
			販売	飲食業	販売・飲食業を除く軽労働	軽労働(合計)		特殊技能	その他	特殊技能その他(合計)	
大学昼間部											
授業期間中	12.3	3.4	25.5	41.3	6.8	73.6	1.6	1.3	7.8	9.1	100.0
長期休暇中	12.1	3.3	25.6	40.7	7.3	73.6	1.9	1.3	7.8	9.1	100.0
短期大学昼間部											
授業期間中	2.0	1.2	29.0	54.1	6.1	89.2	0.4	1.0	6.2	7.2	100.0
長期休暇中	1.8	1.1	28.5	53.4	6.7	88.6	0.4	1.1	7.0	8.1	100.0
大学院											
修士課程											
授業期間中	26.2	8.9	15.5	22.7	7.1	45.3	1.8	5.7	12.1	17.8	100.0
長期休暇中	26.1	8.1	16.2	23.4	6.9	46.5	1.9	5.8	11.4	17.2	100.0
博士課程											
授業期間中	21.2	9.9	4.3	4.3	3.4	12.0	0.6	18.5	37.7	56.2	100.0
長期休暇中	20.9	10.3	4.4	4.9	3.5	12.8	0.7	19.3	36.1	55.4	100.0
専門職学位課程											
授業期間中	23.7	17.7	13.9	18.3	5.9	38.1	1.4	5.9	13.2	19.1	100.0
長期休暇中	24.1	16.5	13.6	18.1	6.8	38.5	2.2	5.3	13.4	18.7	100.0

(注)大学院は、ティーチングアシスタント(TA)及びリサーチアシスタント(RA)従事者を含まない。

【参考】平成24年度調査結果

(単位:%)

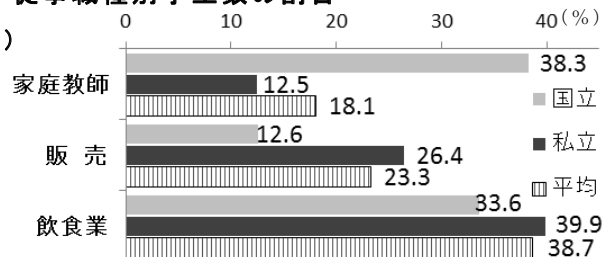
区分	家庭教師	事務	軽労働	重労働危険作業	特殊技能その他	計	区分	家庭教師	事務	軽労働	重労働危険作業	特殊技能その他	計
大学昼間部	12.2	3.7	77.7	1.2	5.1	100.0	大学 修士課程	25.3	8.1	52.7	1.1	12.8	100.0
短期大学昼間部	2.1	1.4	91.4	0.6	4.5	100.0	大学 博士課程	23.1	10.2	14.6	1.1	51.0	100.0
							大学院 専門職学位課程	27.0	16.4	41.8	0.9	14.0	100.0

(注) 1. 軽労働は、販売・接客・調理・清掃・警備・包装・配布など。

2. 大学院は、ティーチングアシスタント(TA)及びリサーチアシスタント(RA)従事者を含まない。

**第10図 授業期間中(週1～2日)のアルバイト従事職種別学生数の割合**

(大学昼間部/国・私立/家庭教師、販売、飲食業)



## 5. 奨学金の受給希望及び受給状況

### (1) 学校種別の奨学金受給希望・受給状況（第11図）

奨学金の受給希望の状況及び受給者（日本学生支援機構、地方公共団体、民間団体、学校からの奨学金受給者をいう）の割合について、学校種別（平均）で比べてみると、奨学金の受給者の割合は、大学院博士課程で62.7%と最も高く、それ以外の区分ではそれぞれ受給者が約50%という結果となった。

受給希望<sup>(注)</sup>と受給状況についてみると、申請したが不採用となった割合は、全体的にみて、1~2%程度、希望するが申請しなかった割合をみると、大学院専門職学位課程を除き、約6%~約8%となった。これらの受給希望者を受給者に含めると、全体の約6割以上が奨学金の受給を希望していることとなる。

### (2) 設置者別の奨学金受給希望・受給状況（第11図）

奨学金の受給者希望の状況及び受給者の設置者（国・公・私立）別の割合についてみると、約半数以上が奨学金の受給を希望している。

大学昼間部の奨学金受給希望者（「必要ない」以外の合計）の割合は、公立が最も高く、受給者は割合が高い順に、公立56.6%、私立51.4%、国立49.4%となった。奨学金申請者（「受給者」「申請したが不採用」の合計）に占める受給者の割合は、国立97.6%、公立98.1%、私立97.7%となった。

短期大学昼間部の奨学金受給希望者の割合は、私立よりも公立が高く、奨学金申請者に対する受給者の割合は、公立99.0%、私立98.0%となった。

大学、短期大学について、希望するが申請しなかった学生の割合は、大学昼間部国立6.5%、短期大学昼間部（公・私立）5.5%が学校種別・設置者別の最高値となった。

大学院修士課程の奨学金受給希望者の割合は、公立が最も高く、受給者は割合が高い順に、公立60.0%、国立55.9%、私立53.8%となった。奨学金申請者に占める受給者の割合は、国立97.6%、公立97.2%、私立96.1%となった。

大学院博士課程の奨学金受給希望者の割合は、国立が最も高く、受給者は割合が高い順に、国立66.7%、公立53.5%、私立52.5%となった。奨学金申請者に対する受給者の割合は、国立96.7%、公立96.4%、私立95.6%となった。

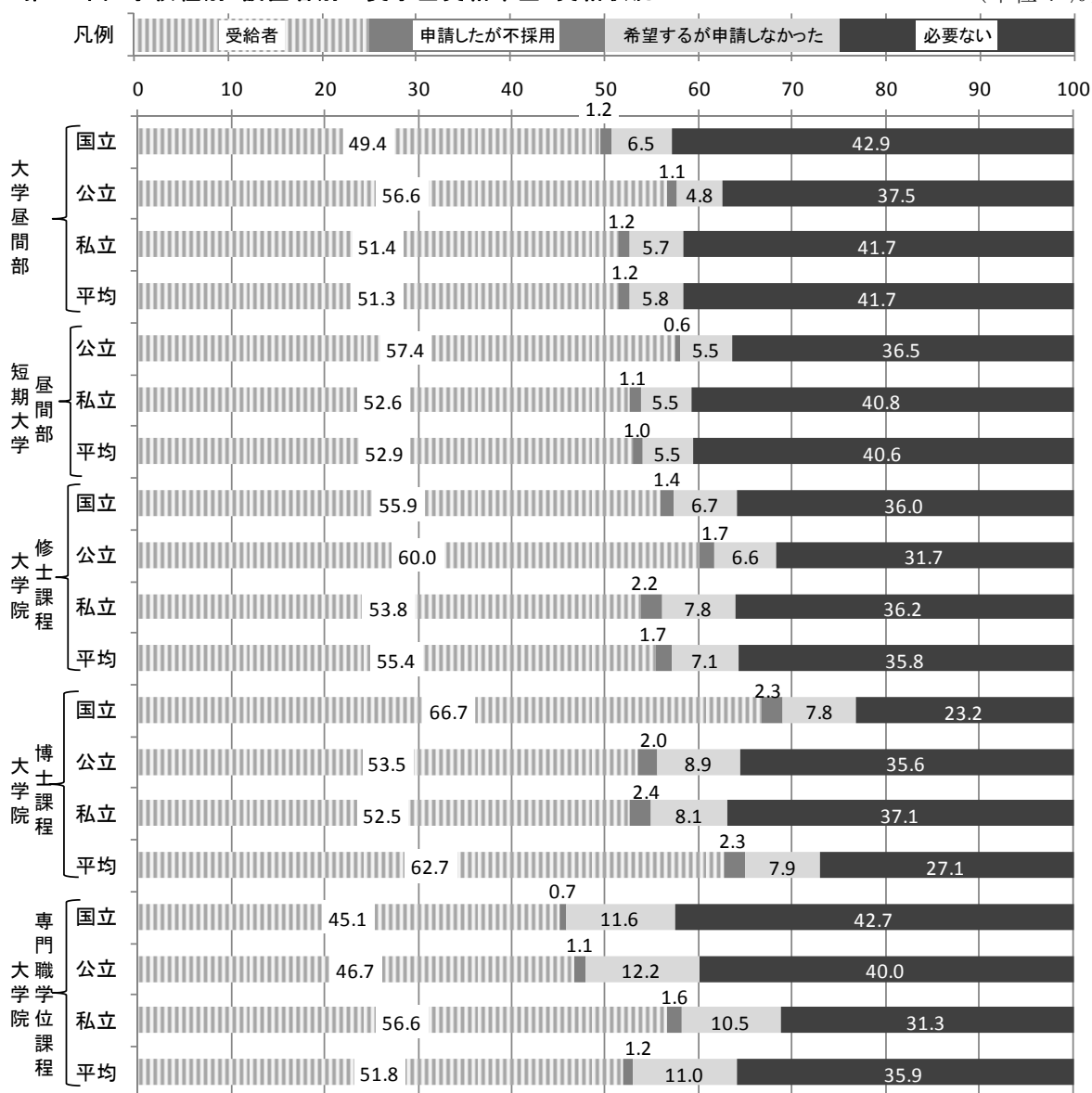
大学院専門職学位課程の奨学金受給希望者の割合は、私立が最も高く、受給者は割合が高い順に、私立56.6%、公立46.7%、国立45.1%となった。奨学金申請者に対する受給者の割合は、国立98.5%、公立97.7%、私立97.3%となっている。

奨学金を希望するが申請しなかった割合は、修士課程と博士課程は10%未満となり、専門職学位課程では、国立11.6%、公立12.2%、私立10.5%となった。

(注) 受給希望 = 「受給者」 + 「申請したが不採用」 + 「希望するが申請しなかった」

第 11 図 学校種別・設置者別の奨学金受給希望・受給状況

(単位：%)



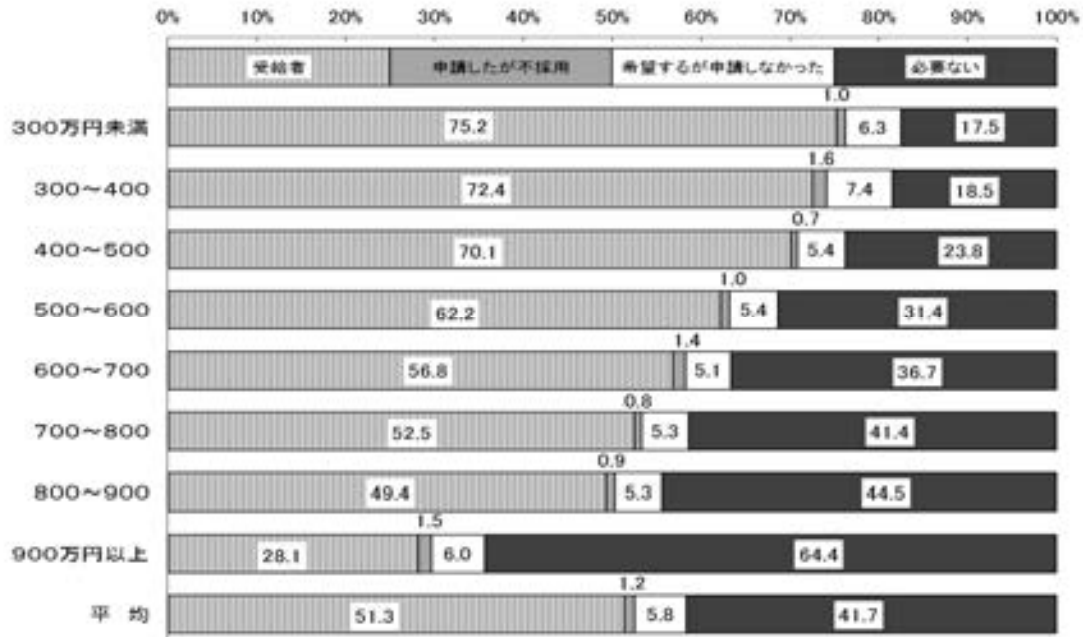


### (3) 家庭の所得階層別の奨学金受給希望・受給状況 (第12図)

大学昼間部について、家庭の所得階層別の奨学金受給希望及び受給状況をみると、第12図のとおり、家庭の所得が高くなるにつれて奨学金受給者の割合は小さくなる傾向を示している。

なお、奨学金の受給を「希望するが申請をしなかった」奨学金受給希望者は、家庭の所得にかかわらず、全所得階層にわたりほぼ一定の割合を占めている。

第12図 家庭の所得階層別の奨学金受給希望・受給状況(大学昼間部)



### (4) 奨学金の種類別・設置者別受給状況 (第13図)

奨学金の種類別受給状況を学校種別・設置者別にみると第13図のような結果となっており、学校種別・設置者別にみると、全ての学校種別で、その他の奨学金受給者（両方受給している者を含む）の割合は、私立が最も高くなっている。両方受給している者の割合は、大学院のほうが多く、専門職学位課程私立では、26.1%が日本学生支援機構とその他の奨学金を両方受給している。

設置者別にみると、大学昼間部では、日本学生支援機構の奨学金受給者（両方を受給している者を含む）の割合は、公立が92.2%と最も高く、次いで国立91.9%、私立90.9%の順となっている。その他の奨学金受給者の割合は私立が最も高く、両方受給している者を含めると、私立20.2%、国立と公立は共に15.2%となった。

短期大学昼間部では、日本学生支援機構の奨学金受給者（両方を受給している者を含む）の割合は、公立が93.7%と高く、私立の86.5%より7.2ポイント多い。その他の奨学金受給者の割合は私立が最も高く、両方受給している者を含めると、私立は25.3%で、公立より11.7ポイント多くなっている。

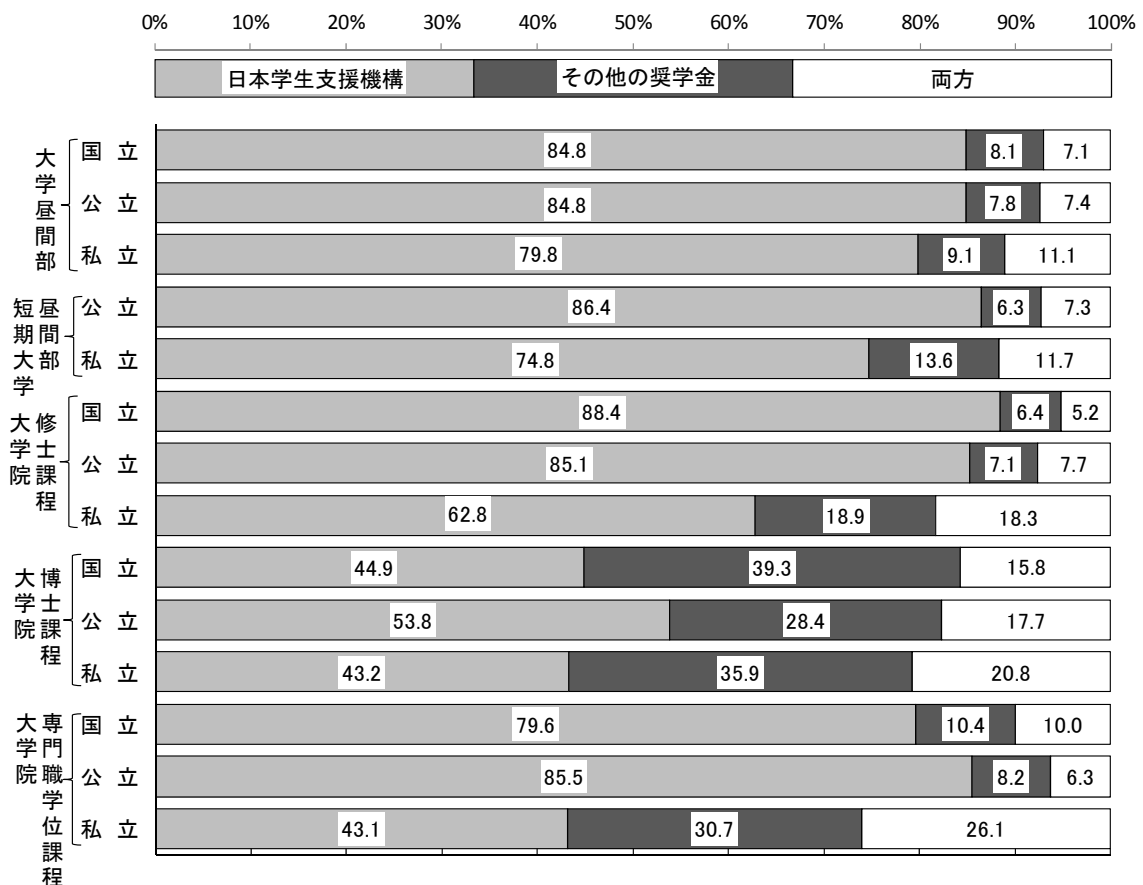
大学院修士課程は、私立については、異なる傾向が見られるが、国公立の奨学金の受給種別の受給割合の傾向は、大学昼間部や短期大学昼間部と同様で、約90%以上が日本学生支援機構の奨学金受給者（両方を受給している者を含む）と

なっている。私立も 81.1%が日本学生支援機構の奨学金受給者（両方受給している者を含む）と多く、その他の奨学金受給者（両方受給している者を含む）は 37.2%となっている。

大学院博士課程では、日本学生支援機構の奨学金受給者（両方受給している者を含む）の割合は、公立で最も高く 71.5%で、次いで私立が 64.0%、国立が 60.7%となっている。国立と私立のその他の奨学金受給者の割合は 50%以上となっている。その他の奨学金のみ受給する割合も高く、学校種別・設置者別にみても、高い割合で、国立で 39.3%、公立で 28.4%、私立で 35.9%となっている。

大学院専門職学位課程では、日本学生支援機構の奨学金受給者（両方を受給している者を含む）の割合は、国立と公立で約 90%と高いが、私立では 69.2%となった。私立は、その他の奨学金受給者（両方受給している者を含む）の割合が、56.8%と高く、両方受給する割合は博士課程よりも高くなっている。また、その他の奨学金受給者（両方受給している者を含む）の割合は、国公立に比べて、私立は 2 倍以上多くなっている。

第 13 図 奨学金の種類別・設置者別受給状況



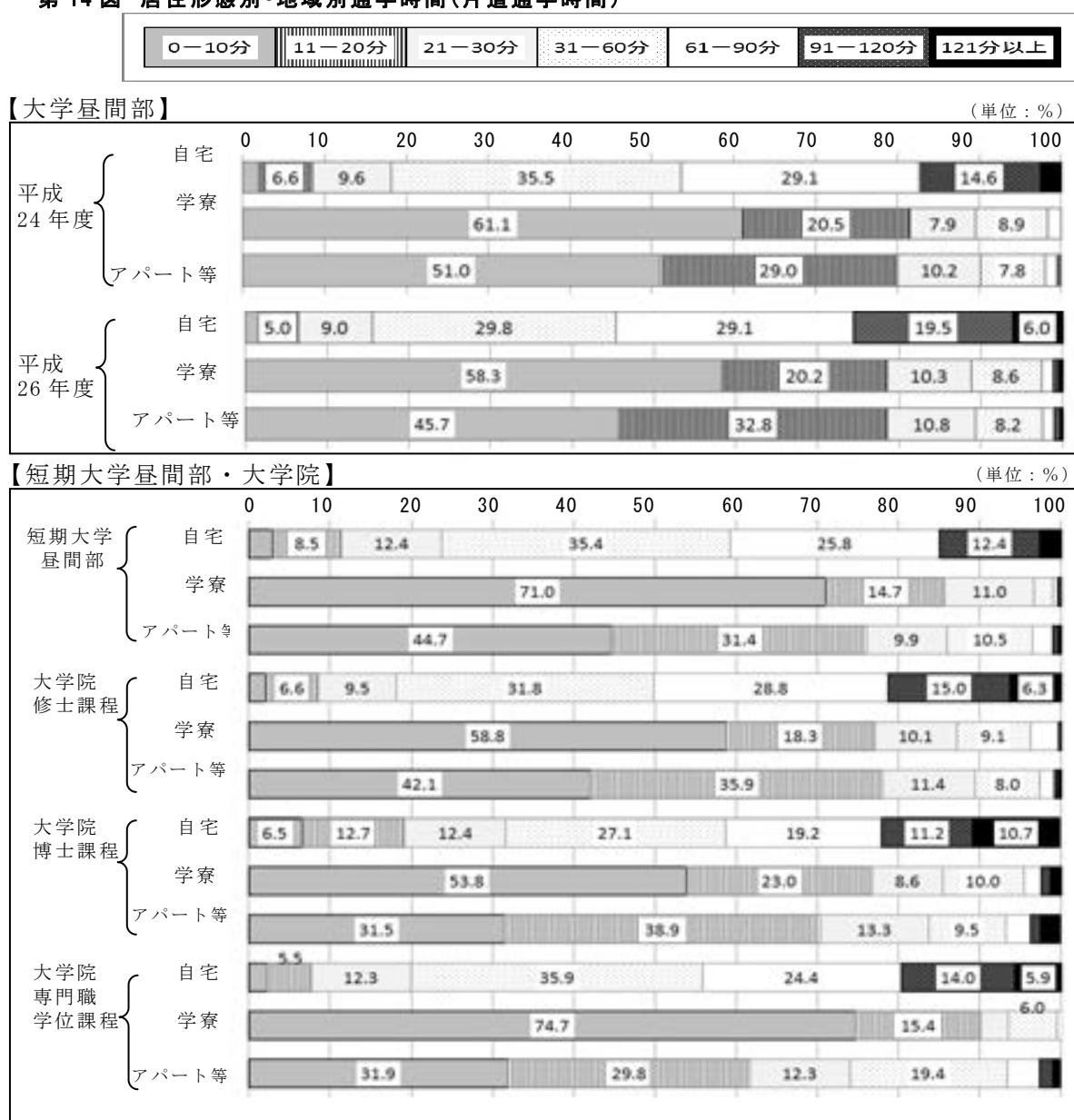
## 6. 居住形態別・地域別通学時間（第14図）

居住形態別・地域別に平均的な通学時間については、平成26年度調査において、回答方法を記述式から選択式に変更した。前回調査との比較という観点から、大学昼間部について、前回調査回答を選択式の回答に置換した結果、回答方法の変更によって、回答傾向に大きな変化は見られなかった。

全体的にみて、自宅居住の学生の通学時間は31～60分が最も多く、学寮居住の学生は10分以内が過半数を占めている。アパート等居住の学生は、大学院博士課程で11～20分が最も多くなったが、その他は、10分以内が最も多くなっている。

また、通学時間は、地域別で傾向の違いが見られ、集計表0-1（大学昼間部）をみると、「東京圏」や「京阪神」の自宅居住の学生は、61分以上の割合が全国平均や「その他」よりも多くなっている。

第14図 居住形態別・地域別通学時間（片道通学時間）



## 7. 週間平均生活時間（P表、第15図）

調査時点の最近1週間（※1）における生活時間の平均回答は、P表のような結果となった。太字は、各設問（※2）で最も高い回答率を示している。学校種別に比べると、大きな違いは、「大学の授業（大学内での授業、研究、実習、実験）」に充てた時間で、大学昼間部（以下、「大学」と）短期大学昼間部（以下、「短期大学」）の場合は、「大学の授業」について「16～20時間」と回答した割合が最も多いが、大学院の「大学内での授業、研究、実習、実験」については、「31時間以上」と回答した割合が最も多く。大学院修士課程（以下、「修士課程」）と大学院博士課程（以下、「博士課程」）では、約50%が「31時間以上」と回答している。

「アルバイト・定職」についてみると、すべての学校種別において、「0時間」と回答した割合が最も高くなっているが、1時間以上の選択肢に回答している割合の合計をみると、大学66.9%、短期大学65.3%、修士課程50.5%、博士課程52.3%、大学院専門職学位課程（以下、「専門職学位課程」）38.1%となっている。

「娯楽・交友」についてみると、全学校種別において「1～5時間」または「6～10時間」の回答区分の割合が最も多くなっている。また、「16時間以上」の回答を合計してみると、専門職学位課程が11.6%と最も少なく、博士課程14.1%、短期大学18.5%、修士課程20.4%、大学20.8%となっている。

※1. 平成26年11月における不特定の一週間

※2. 本設問は、平成26年度の調査票において回答方法および設問の一部を変更しているため、平成24年度との比較にあたっては、留意する必要がある。

P表 週間平均生活時間（抜粋）

（単位：％）

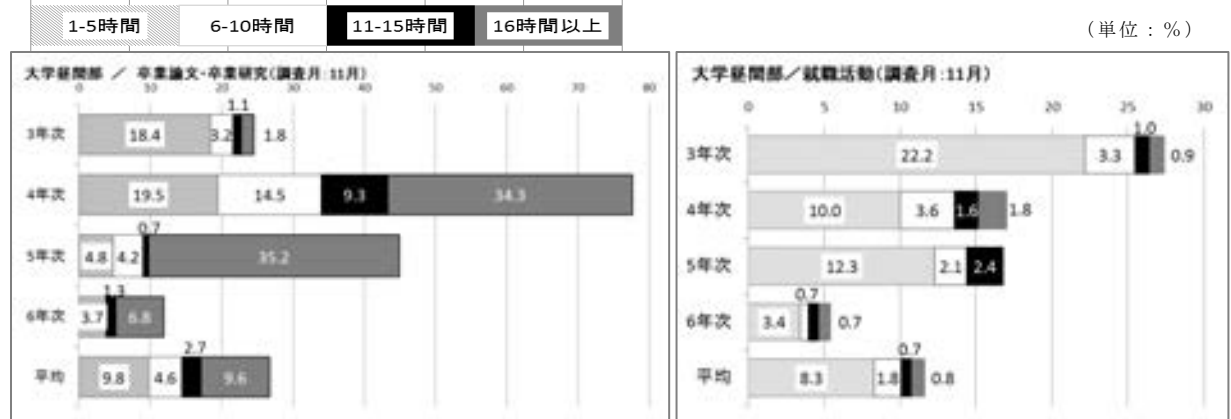
		0時間	1～5	6～10	11～15	16～20	21～25	26～30	31時間以上	無回答	計
大学昼間部	大学の授業	6.1	14.2	10.5	15.7	<b>22.1</b>	17.9	7.1	5.8	0.6	100
	卒業論文・卒業研究	<b>72.5</b>	9.8	4.6	2.7	2.1	1.5	1.2	4.8	0.7	100
	アルバイト・定職	<b>32.3</b>	8.8	14.7	17.6	13.9	6.6	2.6	2.7	0.7	100
	就職活動	<b>87.6</b>	8.3	1.8	0.7	0.4	0.2	0.1	0.1	0.8	100
	娯楽・交友	3.3	<b>28.8</b>	<b>29.5</b>	16.7	8.4	4.1	2.1	6.2	0.8	100
短期大学	大学の授業	0.3	4.1	12.7	14.3	<b>20.6</b>	19.3	13.8	13.4	1.5	100
	アルバイト・定職	<b>34.1</b>	9.1	14.4	17.0	12.9	7.0	2.3	2.6	0.7	100
	娯楽・交友	4.4	<b>32.4</b>	27.3	16.4	8.2	3.7	1.9	4.7	1.0	100
大学院修士課程	大学内での授業、研究、実習、実験	1.4	6.8	10.3	8.5	7.3	7.2	7.6	<b>50.6</b>	0.3	100
	ティーチングアシスタント（TA）	<b>64.8</b>	24.0	6.9	1.2	0.6	0.1	0.0	0.1	2.3	100
	アルバイト・定職（TA・RAを除く）	<b>47.8</b>	11.2	13.5	9.4	6.3	2.7	1.0	6.4	1.9	100
	娯楽・交友	4.4	<b>28.1</b>	<b>28.1</b>	16.8	8.5	4.5	2.2	5.2	2.1	100
大学院博士課程	大学内での授業、研究、実習、実験	7.7	13.5	9.5	5.6	4.7	5.0	4.8	<b>48.4</b>	0.8	100
	ティーチングアシスタント（TA）	<b>71.3</b>	16.6	5.3	1.3	0.7	0.2	0.1	0.2	4.2	100
	リサーチアシスタント（RA）	<b>73.3</b>	7.5	6.0	3.2	2.7	0.8	0.6	1.4	4.6	100
	アルバイト・定職（TA・RAを除く）	<b>45.3</b>	6.6	8.6	6.6	5.2	3.5	2.3	19.5	2.5	100
専門職学位課程	娯楽・交友	8.9	<b>33.4</b>	27.4	12.7	6.5	3.0	1.3	3.3	3.5	100
	大学内での授業、研究、実習、実験	1.4	10.0	19.2	22.9	12.3	6.0	3.3	<b>24.6</b>	0.3	100
	ティーチングアシスタント（TA）	<b>87.5</b>	3.8	1.1	0.2	0.2	0.1	0.0	0.1	7.1	100
	アルバイト・定職（TA・RAを除く）	<b>56.8</b>	5.6	5.5	3.6	2.6	1.6	1.0	18.2	5.0	100
	娯楽・交友	8.0	<b>36.6</b>	26.9	12.2	5.5	2.4	1.2	2.5	4.7	100

また、「0 時間」の割合が多くなった「卒業論文・卒業研究」「就職活動」について、大学昼間部 3 年次～6 年次の学年別にみると第 15 図のような結果となった。

4 年次についてみると、60%近い学生が 1 週間に 6 時間以上を「卒業論文・卒業研究」に充てており、4 年次の約 3 分の 1 は 16 時間以上充てている。平均と比較すると 3 倍以上多い結果となっている。5 年次についても 3 分の 1 の学生が卒業論文・卒業研究に 16 時間以上充てている。

「就職活動」についても同様にみると、全体としては 0 時間と回答した割合が約 90%以上になっているものの、学年別では、3 年次の約 27%の学生が、就職活動のために 1 時間以上の時間を充てた結果となった。なお、5 年次と 6 年次の回答者は、医・歯系、薬系、農系の一部に在学する学生であるが、6 年次では、卒業論文・卒業研究、就職活動についての割合が平均より少ない結果となった。

第 15 図 週間平均生活時間  
(大学昼間部／「卒業論文・卒業研究」「就職活動」)



## 8. 大学の学生支援体制への満足度(Q表)<sup>(※1)</sup>

「図書館・自習室などの学習支援施設」は、「利用したことがない」割合が少ない結果となった。利用者に占める「満足」と「やや満足」の割合の合計をみると、大学昼間部（以下、「大学」）で 81.8%、短期大学昼間部（以下、「短期大学」）で 87.6%、大学院修士課程（以下、「修士課程」）で 79.2%、大学院博士課程（以下「博士課程」）で 77.4%、大学院専門職学位課程（以下「専門職学位課程」）で 78.5%となった。

「キャリア・センターなどでの就職・進路への支援」では、「利用したことがない」割合は、短期大学で最も少なくなったが、大学と修士課程では、「利用したことがない」割合が半数程度で、利用している割合は、それぞれ 53.3%となった。博士課程と専門職学位課程では、約 70%が「利用したことがない」となっている。利用者に占める「満足」と「やや満足」の割合は、短期大学で 87.9%と最も高く、次いで、大学 78.2%、修士課程 71.5%、専門職学位過程 64.3%、博士課程 62.2%となった。

「学習・生活面でのカウンセリング」については、利用していると回答した割合が、短期大学の 53.7%が最高値で、次いで専門職学位課程 45.1%、大学 40.9%、

修士課程 35.7%、博士課程 29.6%となっている。「満足」と「やや満足」と回答した割合の合計は、短期大学の83.6%が最高値で、以下、専門職学位課程73.4%、大学72.9%、修士課程70.0%、博士課程64.2%となっている。

「奨学金等の経済的支援に関する情報提供」については「利用したことがない」割合は、全学校種別で、約30%～40%となった。この結果について、「設置者別・家庭の年間収入別奨学金の希望及び受給状況<sup>(※2)</sup>」における「必要ない」の状況を併せてみると、大学の「必要ない」41.7%に対し、「利用したことがない」は39.7%、短期大学の「必要ない」40.6%に対し、「利用したことがない」は38.8%、修士課程の「必要ない」35.8%に対し、「利用したことがない」は33.6%、博士課程の「必要ない」27.1%に対し、「利用したことがない」は35.1%、専門職学位課程の「必要ない」35.9%に対し、「利用したことがない」は39.3%となっている。利用者における「満足」と「やや満足」と回答した割合の合計は、短期大学の84.8%が最高値で、次いで大学74.4%、専門職学位課程70.6%、修士課程69.5%、博士課程67.1%となった。

全体的にみると、すべての設問について「満足」と「やや満足」と答えた割合の合計は短期大学で最も高い結果となった。

(※1) 本項目は、平成26年度の調査票において、設問の内容を変更しており、平成24年度と比較する場合には、留意する必要がある。

(※2) 学生生活調査集計表Ⅰ. 大学・短期大学K-1表及びK-3表、同Ⅱ. 大学院のK-1～3表参照。

Q表 大学の学生支援体制への満足度

(単位：%)

区分	利用したことがある				計	利用したことがない	無回答
	満足	やや満足	やや不満	不満			
図書館・自習室 などの学習支援施設	大学昼間部	(81.8)		(18.2)	(100.0)		
		35.8	43.1	13.4	4.1	96.4	3.5
	短期大学	(87.6)		(12.4)	(100.0)		
	昼間部	40.6	41.0	9.4	2.1	93.1	6.9
	大学院	(79.2)		(20.8)	(100.0)		
	修士課程	35.8	40.3	15.3	4.7	96.1	4.0
	大学院	(77.4)		(22.6)	(100.0)		
	博士課程	33.6	35.2	14.8	5.3	88.9	11.0
	大学院専門職 学位課程	(78.5)		(21.5)	(100.0)		
		42.1	34.2	15.4	5.5	97.2	2.7
キャリア・センター などでの就職・進路 への支援	大学昼間部	(78.2)		(21.8)	(100.0)		
		14.4	27.3	8.7	2.9	53.3	46.6
	短期大学	(87.9)		(12.1)	(100.0)		
	昼間部	31.3	32.5	7.1	1.7	72.6	27.3
	大学院	(71.5)		(28.5)	(100.0)		
	修士課程	12.0	26.1	10.9	4.3	53.3	46.5
	大学院	(62.2)		(37.8)	(100.0)		
	博士課程	5.3	12.8	6.6	4.4	29.1	70.7
	大学院専門職 学位課程	(64.3)		(35.7)	(100.0)		
		6.6	13.2	6.8	4.2	30.8	68.9
学習・生活面での カウンセリング	大学昼間部	(72.9)		(27.1)	(100.0)		
		9.2	20.6	8.1	3.0	40.9	59.0
	短期大学	(83.6)		(16.4)	(100.0)		
	昼間部	17.1	27.8	7.2	1.6	53.7	46.2
	大学院	(70.0)		(30.0)	(100.0)		
	修士課程	8.5	16.5	7.7	3.0	35.7	64.2
	大学院	(64.2)		(35.8)	(100.0)		
	博士課程	6.9	12.1	6.6	4.0	29.6	70.3
	大学院専門職 学位課程	(73.4)		(26.6)	(100.0)		
		13.5	19.6	7.8	4.2	45.1	54.8
奨学金等の 経済的支援に関する 情報提供	大学昼間部	(74.4)		(25.6)	(100.0)		
		14.9	29.8	11.9	3.5	60.1	39.7
	短期大学	(84.8)		(15.2)	(100.0)		
	昼間部	21.7	30.0	7.7	1.6	61.0	38.8
	大学院	(69.5)		(30.5)	(100.0)		
	修士課程	16.6	29.5	15.3	4.9	66.3	33.6
	大学院	(67.1)		(32.9)	(100.0)		
	博士課程	15.8	27.7	15.0	6.3	64.8	35.1
	大学院専門職 学位課程	(70.6)		(29.4)	(100.0)		
		18.5	24.2	12.3	5.5	60.5	39.3

## 9. 学生の不安・悩み(R表)<sup>(※)</sup>

「授業の内容についていけない」について不安や悩みが「大いにある」と「少しある」(以下、「不安や悩みがある」と回答した割合の合計が最も高くなったのは、大学昼間部(以下、「大学」)で、35.2%となった。これに対し、大学院博士課程(以下、「博士課程」)はその半数以下の14.0%と少なく、「全くない」と答えた割合が56.1%となっている。

「卒業後にやりたいことがみつからない」については、不安や悩みがある回答で最も高い割合となったのは大学の40.8%で、「全くない」の割合は29.4%と最も低い割合となっている。この設問について「全くない」の回答が最も高い割合となったのは大学院専門職学位課程(以下、「専門職学位課程」)で、61.0%となっている。

「希望の就職先や進学先に行けるか不安だ」についても、不安や悩みがある回答の割合は、大学で最も高く69.9%となった。次いで、短期大学で60.0%、博士課程と専門職学位課程で51.1%、大学院修士課程(以下、「修士課程」)で49.6%となっている。この設問に関連して、「Q表 大学の学生支援体制への満足度」の項目『キャリア・センターなどでの就職・進路指導への支援』をみると、博士課程と専門職学位課程において、「利用したことがない」と回答した割合が約7割と高くなっている。

「経済的に勉強を続けることが難しい」については、不安や悩みがある回答の割合は、専門職学位課程で31.5%と最も高く、次いで、博士課程31.3%、修士課程22.1%、大学17.3%と続き、短期大学の15.0%が最も低くなった。この設問に関連して、「Q表 大学の学生支援体制への満足度」の項目『奨学金等の経済支援に関する情報提供』をみると、大学院の「やや不満」と「不満」と回答した割合の合計は、大学と短期大学より高くなっている。

「学内の友人関係の悩みがある」については、不安や悩みが「あまりない」と「全くない」と回答した割合の合計は、博士課程で89.4%と最も高くなったが、その他の学校種別においても「あまりない」と「全くない」と回答した割合の合計は80%以上となっている。

※本項目は、平成26年度の調査票において、設問内容を変更しており、平成24年度と比較する場合には、留意する必要がある。

R 表 学生の不安・悩み

(単位：%)

区分		大いに ある	少し ある	あまり ない	全く ない	無回答	計
授業の内容について いけない	大学昼間部	4.6	30.6	39.8	24.9	0.1	100.0
	短期大学昼間部	3.6	29.6	44.9	21.8	0.1	100.0
	大学院修士課程	2.7	18.3	36.8	42.1	0.1	100.0
	大学院博士課程	2.4	11.6	29.8	56.1	0.2	100.0
	大学院専門職学位課程	5.4	26.1	39.8	28.6	0.1	100.0
卒業後にやりたいこ とが見つからない	大学昼間部	12.6	28.2	29.7	29.4	0.1	100.0
	短期大学昼間部	7.8	20.8	29.3	42.0	0.1	100.0
	大学院修士課程	6.1	19.9	28.5	45.4	0.2	100.0
	大学院博士課程	4.5	12.8	25.7	56.8	0.2	100.0
	大学院専門職学位課程	2.7	10.1	26.0	61.0	0.2	100.0
希望の就職先や進学 先へ行けるか不安だ	大学昼間部	33.7	36.2	14.6	15.4	0.1	100.0
	短期大学昼間部	24.7	35.3	18.5	21.3	0.1	100.0
	大学院修士課程	24.0	25.6	15.4	34.8	0.2	100.0
	大学院博士課程	28.1	23.0	15.1	33.6	0.2	100.0
	大学院専門職学位課程	27.4	23.7	14.3	34.4	0.2	100.0
経済的に勉強を続け ることが難しい	大学昼間部	2.6	14.7	39.7	42.8	0.1	100.0
	短期大学昼間部	2.7	12.3	40.0	44.9	0.2	100.0
	大学院修士課程	5.0	17.1	31.5	46.4	0.0	100.0
	大学院博士課程	8.5	22.8	28.7	39.8	0.1	100.0
	大学院専門職学位課程	8.5	23.0	29.2	39.1	0.2	100.0
学内の友人関係の悩 みがある	大学昼間部	3.5	14.4	36.2	45.8	0.1	100.0
	短期大学昼間部	2.8	14.1	35.2	47.9	0.1	100.0
	大学院修士課程	2.5	9.6	29.7	58.1	0.0	100.0
	大学院博士課程	2.6	7.9	26.8	62.6	0.1	100.0
	大学院専門職学位課程	2.7	11.3	30.3	55.5	0.2	100.0



②表 居住形態別・設置者別の学生生活費

区分	自宅			下宿、アパート、その他			全居住形態平均		
	学費	生活費	合計	学費	生活費	合計	学費	生活費	合計
国立	711,200円 (△2.9%)	388,100円 (△10.9%)	1,099,300円 (△5.9%)	623,700円 (△3.8%)	1,090,900円 (△4.9%)	1,714,600円 (△4.5%)	647,700円 (△3.9%)	851,700円 (△4.3%)	1,499,400円 (△4.1%)
公立	724,600円 (△1.3%)	374,200円 (△11.1%)	1,098,800円 (△4.9%)	626,700円 (△2.6%)	1,022,700円 (△4.6%)	1,649,400円 (△3.9%)	666,300円 (△2.3%)	756,600円 (△4.2%)	1,422,900円 (△3.3%)
私立	1,369,400円 (3.1%)	400,200円 (△7.9%)	1,769,600円 (0.4%)	1,374,500円 (2.8%)	1,016,000円 (△5.4%)	2,390,500円 (△0.9%)	1,361,600円 (3.2%)	616,600円 (△6.2%)	1,978,200円 (0.1%)
平均	1,279,100円 (2.7%)	398,000円 (△8.3%)	1,677,100円 (△0.2%)	1,090,900円 (0.1%)	1,039,000円 (△5.1%)	2,129,900円 (△2.5%)	1,195,300円 (1.7%)	666,800円 (△5.4%)	1,862,100円 (△1.0%)
国立	...	...	...	...	...	...	...	...	...
公立	556,900円 (0.6%)	308,300円 (△5.0%)	865,200円 (△1.4%)	489,500円 (△3.1%)	797,300円 (△15.4%)	1,286,800円 (△11.1%)	517,700円 (△1.3%)	556,900円 (△13.6%)	1,074,600円 (△8.1%)
私立	1,162,900円 (0.9%)	346,600円 (△15.1%)	1,509,500円 (△3.3%)	1,069,500円 (2.5%)	904,300円 (△10.6%)	1,973,800円 (△3.9%)	1,136,300円 (1.2%)	472,200円 (△15.0%)	1,608,500円 (△4.1%)
平均	1,143,900円 (0.9%)	345,500円 (△14.9%)	1,489,400円 (△3.3%)	994,300円 (1.7%)	890,300円 (△11.2%)	1,884,600円 (△4.9%)	1,104,000円 (1.1%)	476,500円 (△14.9%)	1,580,500円 (△4.3%)
国立	687,300円 (△2.8%)	514,800円 (△1.2%)	1,202,100円 (△2.1%)	585,000円 (△1.7%)	1,274,400円 (1.8%)	1,859,400円 (0.7%)	611,300円 (△2.0%)	1,033,600円 (1.9%)	1,644,900円 (0.4%)
公立	714,000円 (0.4%)	597,400円 (5.7%)	1,311,400円 (2.7%)	622,800円 (△3.9%)	1,218,400円 (△0.8%)	1,841,200円 (△1.9%)	661,100円 (△2.3%)	947,600円 (6.8%)	1,608,700円 (2.9%)
私立	1,143,300円 (1.7%)	550,300円 (0.8%)	1,693,600円 (1.4%)	1,081,200円 (5.1%)	1,304,900円 (3.2%)	2,386,100円 (4.0%)	1,115,100円 (3.0%)	856,500円 (1.1%)	1,971,600円 (2.2%)
平均	909,100円 (△0.4%)	537,500円 (0.2%)	1,446,600円 (△0.2%)	699,800円 (△1.3%)	1,278,000円 (1.9%)	1,977,800円 (0.8%)	780,400円 (△1.0%)	969,800円 (2.3%)	1,750,200円 (0.8%)
国立	743,400円 (△3.3%)	956,200円 (1.5%)	1,699,600円 (△0.7%)	594,800円 (△0.7%)	1,719,300円 (5.4%)	2,314,100円 (3.7%)	636,700円 (△1.5%)	1,465,900円 (4.4%)	2,102,600円 (2.5%)
公立	777,600円 (△0.2%)	1,090,700円 (5.4%)	1,868,300円 (3.0%)	708,100円 (△0.5%)	1,802,500円 (4.9%)	2,510,600円 (3.3%)	736,000円 (0.6%)	1,491,000円 (8.2%)	2,227,000円 (5.6%)
私立	970,400円 (△4.3%)	1,016,300円 (7.4%)	1,986,700円 (1.4%)	856,500円 (△3.1%)	1,803,500円 (0.6%)	2,660,000円 (△0.6%)	909,500円 (△3.4%)	1,415,300円 (1.8%)	2,324,800円 (△0.3%)
平均	820,100円 (△3.3%)	984,500円 (3.7%)	1,804,600円 (0.4%)	650,400円 (△1.6%)	1,739,400円 (4.3%)	2,389,800円 (2.6%)	706,900円 (△1.9%)	1,455,100円 (4.0%)	2,162,000円 (2.0%)
国立	862,500円 (△3.7%)	633,900円 (△3.3%)	1,496,400円 (△3.5%)	713,600円 (△12.6%)	1,395,300円 (4.5%)	2,108,900円 (△2.0%)	762,100円 (△8.5%)	1,086,300円 (1.4%)	1,848,400円 (△2.9%)
公立	869,100円 (△6.3%)	985,500円 (14.9%)	1,854,600円 (3.9%)	693,700円 (3.2%)	1,601,700円 (23.8%)	2,295,400円 (16.7%)	744,300円 (△0.4%)	1,139,000円 (20.9%)	1,883,300円 (11.5%)
私立	1,446,100円 (1.5%)	901,200円 (31.0%)	2,349,300円 (11.1%)	1,398,300円 (6.7%)	1,452,300円 (3.9%)	2,850,600円 (5.3%)	1,425,600円 (4.2%)	1,140,500円 (13.3%)	2,566,100円 (8.1%)
平均	1,270,200円 (△0.8%)	834,200円 (21.7%)	2,104,400円 (7.1%)	1,098,500円 (0.3%)	1,434,000円 (4.7%)	2,532,500円 (2.7%)	1,167,400円 (△0.1%)	1,121,700円 (9.4%)	2,289,100円 (4.3%)

(注) ( ) は、平成21年度調査からの増減率である。